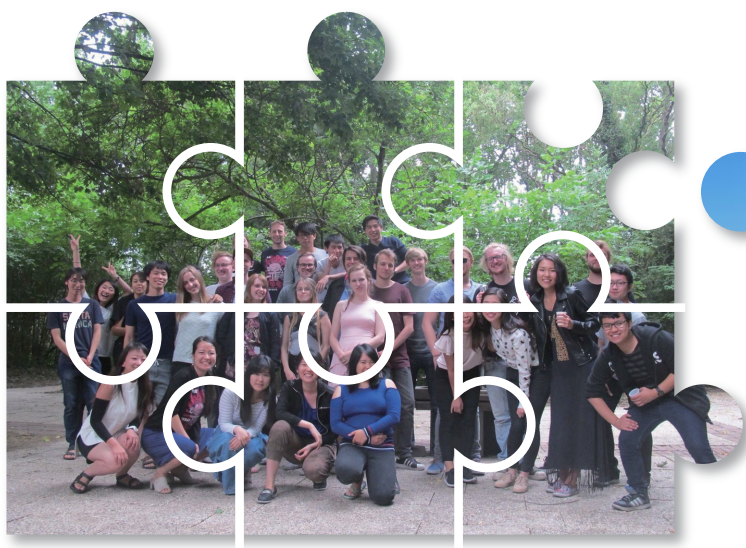


交換留学の手引き

Shiga University Exchange Program Handbook 2019



2019 年度版

国立大学法人 滋賀大学



もくじ

I. 滋賀大学交換留学制度とは.....	1
II. 交換留学資料.....	6
III. 協定大学紹介.....	11
IV. 交換留学体験記.....	50
V. 語学試験について.....	68
VI. 海外留学奨学金・助成金.....	72
VII. 各国大使館・総領事館一覧.....	74

1 滋賀大学交換留学制度とは

1 制度概要

滋賀大学は、世界 13 の国と地域にある 19 大学及び 1 コンソーシアム（大学連合）と全学レベルの学生交流協定（交換留学）を締結しています。この協定に基づき、滋賀大学と相手方大学との間で学部生及び大学院生の派遣、受入れを相互に行う交換留学が行われています。

この交換留学制度による留学の応募要件は、本学第 2 年次以上に在籍し、学業成績が良好であり、かつ、健康な者です。留学期間は最長 1 年以内で、留学期間中の授業料は本学に納入し、留学先大学での授業料は免除されます。また、交換留学制度で留学した大学で修得した単位を、帰国後に本学での単位として認定を願い出することも可能です。

2 募集と学内選考の時期

交換留学生の募集と学内選考は、各留学先大学の留学開始時期の 7～9 か月前に行われます。具体的な応募条件については、6～9 頁に掲載の「Ⅱ. 交換留学資料」に掲載の「①協定大学交換留学情報一覧」を参考にしてください。

募集や学内選考の時期は年 2 回（7 月及び 12 月）あり、一つの大学について原則として年 1 回のみ募集を行います。また、すべての協定校が毎年募集を行うわけではなく、派遣人数が年度により異なる大学もあります。

交換留学を希望する人は、随時行われる派遣交換留学応募説明会に参加して、詳細を確認してください。応募説明会の日時・場所は、国際交流機構のウェブサイト、SUCCESS、学習管理システム SULMS「滋賀大生のための海外留学入門」、学内掲示等で通知します。

3 留学決定までの流れ

Step 1 学内選考の応募書類提出

□ 締め切り日までに学内選考用応募書類を各キャンパス窓口まで提出する

- ・ 交換留学申請書
- ・ 語学力を証明する書類（提出必須：英語圏あるいは英語で授業を行う大学の希望者は TOEFL あるいは IELTS の英語力検定試験のスコア、フランスの大学の希望者は仏検の証明書）
- ・ 英文による留学動機・目的・計画（英語圏あるいは英語で授業を行う大学の希望者のみ）
- ・ 語学検定試験受験料補助事業の申請書提出（選考過程で提出が求められている語学検定試験を受験した場合）

※締め切り後の提出書類の追加、差し替え、修正は一切受け付けない

Step 2 学内選考及び結果通知

□ 学内選考

- ・提出された応募書類、学業成績、面接の内容をもとに選考
- ・面接は大学が指定する日に学内で実施。
※面接候補日時に学内で受験できない場合は辞退として扱う

□ 結果通知

- ・学内選考後、合否を応募者に通知。合格者は派遣交換留学候補者として留学先大学へ推薦される

Step 3 交換留学申請手続き

□ 留学先大学への交換留学申請手続き

- ・留学先大学からの指示に従って留学申請書を作成・提出する（オンラインの場合あり）
- ・学生寮やアパート等の宿舍入居申請書、その他必要書類を提出する

□ 学生ビザの申請準備

- ・渡航に必要な査証（学生ビザ）申請の手順を調べ、申請に必要な書類等を準備しておく

□ 留学先大学から受入れ許可の連絡

4 留学決定から渡航まで

Step 1 渡航に必要な書類の準備と手続き

□ パスポートの取得・期限確認

- ・すでに取得している人は査証申請に必要な残存期間の確認をしておく。未取得の人はすぐに取得の手続きを開始

□ 学生ビザ申請の手続き開始

- ・留学先大学から入学許可書が到着次第すぐに手続きを開始

□ 保健管理センターで健康相談の受診

- ・本学保健管理センターで心身の健康相談を受診し、海外長期滞在中の健康面の助言を受ける

Step 2 滋賀大学への書類提出

□ 提出書類

- ・留学願
- ・出発届
- ・滋賀大学交換留学制度 同意・誓約書
- ・滋賀大学 海外留学 安全管理情報

□ 奨学金・助成金受給に関する書類

- ・日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）奨学金受給に必要な書類の作成と提出（対象者のみ）
- ・滋賀大学教育研究支援基金による海外留学奨励金受給に必要な書類の記入と提出（対象者のみ）

Step 3 渡航最終準備

□ 渡航準備

- ・航空券の予約・購入
- ・留学中の保険（留学生保険、海外旅行保険等）への加入手続き
- ・宿舍費用等の諸費用支払い
- ・留学生活に必要な物の準備（ノートパソコン、防寒着など）
- ・荷造り

□ 現地情報収集

- ・滋賀大学主催の渡航前オリエンテーション出席
- ・国際情勢、留学先の治安・医療事情についての情報収集
外務省海外安全ホームページ URL: <http://www.anzen.mofa.go.jp/>
外務省世界の医療事情 URL: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/>
- ・留学経験者からの助言・情報収集

□ 出発報告

- ・留学中の家族、大学との連絡手段の確認
- ・滋賀大学の所属ゼミやクラス担当等の指導教員に出発を報告する
- ・ゼミの選択や留学中のゼミ指導等について、ゼミ指導教員に相談・確認しておく

5 留学先で

Step 1 留学開始後すぐ

□ 留学先大学主催のオリエンテーションへの参加

- ・留学先大学が開催する留学生対象オリエンテーションや新入生対象オリエンテーションへの参加

□ 「在留届」の提出

- ・日本国籍の学生は、日本政府外務省へ「在留届」を提出する（日本政府外務省 ORR net URL: <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/> でオンライン提出）
- ・日本国籍以外の学生は、各自で国籍を保有する国の大使館等に問い合わせる必要な手続きを行う

□ 留学先での危機管理体制の把握

- ・留学先大学の危機管理体制、緊急時の対応体制、緊急連絡先等の確認・把握

□ 留学中滞在先及び連絡先の周知

- ・滋賀大学へは派遣留学報告書に記入して報告。家族等へも周知する

Step 2 留学中

□ 派遣留学報告書の作成と提出の義務

- ・本学所定「派遣留学報告書」に留学先での学習や生活状況等について記入し、滋賀大学にメールで定期的に提出すること。1学期につき、渡航後2週間（留学1学期目のみ）、学期開始後1・2・3か月、学期終了時の計4あるいは5回の提出が必要

□ 留学中の危機管理

- ・外出時は、緊急連絡先を書いたメモを必ず携行すること
- ・トラブルや困ったことがあった場合には留学先大学の受入れ担当者やアドバイザーにまず相談すること

Step 3 帰国前

□ 帰国予定日の通知

- ・日本に帰国する日が決まったら、帰国予定日を滋賀大学に連絡する。日本帰国日は、原則として現地の学期終了日から約1か月以内

□ 帰国後に必要な書類の手配・入手

- ・現地で履修した科目のシラバスや時間割表（科目ごとの学習時間のわかるもの）。（日本への帰国後に留学先で修得した科目・単位の認定を希望する場合）
- ・在籍（留学）証明書の発行を留学先大学に依頼する（帰国後に必要な場合）

□ 帰国準備

- ・退寮・退居手続き
- ・日本帰国便の航空券の予約・購入

6 帰国後の生活

□ 帰国報告

- ・滋賀大学に帰国報告を行い、留学報告書を提出する

□ 単位互換申請の手続き

- ・留学先で修得した単位・科目の認定を希望する場合、「修得単位認定科目履修願」、成績証明書、現地で履修した科目のシラバスや時間割表（科目ごとの学習時間がわかるもの）等を提出する
提出先：学務課（経済学部生）あるいは学生センター教務係（教育学部生）

□ 在学生への情報提供

- ・本学が開催する留学報告会や所属ゼミ等で、体験談の報告や留学先大学の情報提供

□ 留学成果の活用

- ・留学先で向上した語学力や留学生活で得た知識やスキル等の維持や有効活用

II 交換留学資料

1 協定大学交換留学情報一覧

大学名	国・地域名	公用語等	プログラム内容	学内選考応募時に必要な語学力
ミシガン州立大学 連合	アメリカ	英語	正規授業科目	英語/TOEFL-iBT 79点
グアナフアト大学	メキシコ	スペイン語	初級の語学力:語学学校(1学期目)+正規授業科目(2学期目) 基本レベル:語学学校2科目と正規授業科目の入門レベル 2科目(1学期目)+正規授業科目(2学期目) 中級以上:1学期につき正規授業科目4科目	スペイン語/1年以上のスペイン語科目 の履修経験
啓明大学	韓国	韓国語	韓国語による正規授業科目、国際教育センターの韓 国語コース 英語による正規授業科目	韓国語/授業を理解できる韓国語力 英語/TOEFL-iBT 60点
東北財経大学	中国	中国語	国際漢語文化学院(語学学校)の中国語コース 正規授業科目	中国語/1年以上の中国語学習歴がある ことが望ましい 中国語/HSK(漢語水平考試)6級程度の 中国語力
湘潭大学	中国	中国語	正規授業科目	中国語、英語(一部)/授業を理解でき る語学力
湖南師範大学	中国	中国語	正規授業科目	中国語/授業を理解できる語学力
国立高雄大学	台湾	中国語	正規授業科目(中国語力が不足する場合、附属語学セン ターで交換留学生用中国語プログラムを受講)	中国語、英語(一部)/授業を理解でき る語学力
国立高雄科技大学	台湾	中国語	正規授業科目	中国語/授業を理解できる中国語力
国立台中科技大学	台湾	中国語	正規授業科目	中国語/授業を理解できる中国語力

その他の留学 資格要件	費用の自己負担 が必要な項目	学年暦	学内選考の時期 A：前年7月, B：前年12月	宿舎	年間派遣 人数
		① 秋学期：8月～12月 or 9月～12月 ② 冬・春学期：1月～4月 or 1月～5月 ③ 夏期集中※：5, 6, 7, 8月など ※大学により異なる	B	学生寮, ア パート	3名程度
学内選考の際、 滋賀大学メキシ コ語学・文化研 修参加者を優先		① 1学期：8月～12月 ② 2学期：1月～6月	B	ホームステイ, アパート	上限なし
		① 春学期：3月～6月中旬 ② 秋学期：9月～12月中旬	A	学生寮, ア パート	3名以内
		① 秋学期：9月～1月上旬 ② 春学期：3月～7月中旬	B	学生寮	5名以内
		① 秋学期：9月～ ② 春学期：2月～	B	学生寮	2名以内
		① 秋学期：9月～ ② 春学期：2月～	B	学生寮	2名以内
	交換留学生登録費	① 秋学期：9月～1月 ② 春学期：2月～7月	B	学生寮, ア パート	3名以内
		① 秋学期：9月上旬～1月下旬 ② 春学期：2月下旬～7月中旬	B	学生寮	3名以内
		① 1学期：9月中旬～1月中旬 ② 2学期：2月中旬～6月中旬	B	学生寮	3名以内

大学名	国・ 地域名	公用語等	プログラム内容	学内選考応募時に必要な語学力
チェンマイ大学	タイ	タイ語	教育学部の正規授業科目、外国人留学生向けタイ語講座	基本的なタイ語知識, タイ語学習意欲がある者
チェンマイ ラジャパット大学	タイ	タイ語	基礎タイ語講座、正規授業科目 (International Collegeで開講されている英語での授業科目)	タイ語, 英語 (International College開講科目) / 授業を理解できる語学力
泰日工業大学	タイ	タイ語	英語による短期集中プログラム (10日間~2週間程度)	英語/授業を理解できる英語力, 日本語
人文大学	モンゴル	モンゴル語	正規授業科目	モンゴル語, 英語 (一部) / 授業を理解できる語学力
ハノイ教育大学	ベトナム	ベトナム語	哲学部、ベトナム研究部の正規授業科目、国際教育センターのベトナム語学コース	ベトナム語/授業を理解できるベトナム語力
ノッティンガム大学 マレーシア校	マレー シア	マレー語、 英語	正規授業科目	英語/IELTS 6.5 (各領域6.0) あるいは TOEFL-iBT 87点 (Speaking 20点, 他領域19点)
			ファウンデーションプログラム	英語/IELTS 6.0 (各領域5.5) あるいは TOEFL-iBT 79点 (Writing・Listening17 点, Reading18点, Speaking20点)
サウスイースト ノルウェー大学	ノル ウェー	ノルウェー 語	英語による科目群プログラム (ビジネス観光マネジメント, ビジネス, ノルウェー文化, アウトドア教育, 体育スポーツ文化, 英語等)	英語/TOEFL-iBT 65点 あるいは IELTS 6.0
ゾイド大学	オランダ	オランダ語	英語による科目群プログラム (国際ビジネス, ヨーロッパ研究)	英語/IELTS 6.0 あるいは TOEFL-iBT 80 点
			英語による授業履修初學者向け科目群プログラム (東洋言語コミュニケーション)	英語/IELTS5.0~5.5 あるいは TOEFL-iBT 61点
西部カトリック 大学	フランス	フランス語	正規授業科目	フランス語/CFER B2 (仏検準1級と同等) 以上
			附属仏語教育センターでフランス語学習*	フランス語/CFER B1 (仏検2級と同等) 以上
			ビジネス学科の英語による正規授業科目	英語/TOEFL iBT 72点
ディーキン大学	オースト ラリア	英語	正規授業科目	英語/IELTS6.0 (各領域6.0以上) あるいは TOEFL-iBT 65点 (Writing21点) ※ ※教育学と法学はIELTS7.0 (各領域6.5以上)
シドニー工科大学	オースト ラリア	英語	正規授業科目	英語/IELTS6.5 (Writing6.0) あるいは TOEFL-iBT 79点 (Writing21点) ※教員養成はIELTS7.0 (Writing7.0)
			オーストラリア言語文化研究コース (最初の1学期間のみ)	英語/IELTS5.0 あるいは TOEFL-iBT 60点

その他の留学 資格要件	費用の自己負担 が必要な項目	学年暦	学内選考の時期 A：前年7月, B：前年12月	宿舎	年間派遣 人数
	外国人留学生対 象タイ語講座	① 1学期：8月中旬～11月下旬 ② 2学期：1月上旬～5月上旬 ③ サマーセッション：5月 中旬～8月上旬	B	アパート, ホー ムステイ	3名以内
		① 1学期：6月～10月 ② 2学期：10月下旬～3月 International College ① 1学期： 8月～12月、② 2学期：1月～5月	B	学生用アパー ト	3名以内
		—	泰日工業大学の発表する 募集時期に準ずる	アパート	3名以内
			B		2名以内
		① 1学期：9月～ ② 2学期：2月～	B	学生寮	3名以内
		① 1学期：9月下旬～1月下旬 ② 2学期：2月上旬～5月中旬 ③ 夏学期：5月中旬～9月上旬 【ファウンデーションプログラム】 1学期：9月中旬～12月, 2学期：1月～ 4月、3学期：5月～7月	B	学生寮	2名以内
		① 秋学期：8月中旬～12月上旬 ② 冬・春学期：1月～5月 ③ サマースクール：5月下旬～6月	B	学生寮, 学生 用アパート	3名程度
		① ブロック1&2：8月後半～11 月, 12月～2月初め ② ブロック3&4：2月上旬～4月, 4月～6月	B	学生寮, 学生 用アパート	4名以内
*正規科目履修に必要な語学力が不足する場合、最初の学期に受講を要する	附属仏語教育センターでフランス語学習を受講する場合の授業料	① 1学期：9月～12月20日頃 ② 2学期：1月中旬～5月10日頃	B (応募しめきりは留学開始年の4月)	学生寮, ホー ムステイ	2名以内
	オリエンテー ション旅行費用 (参加を希望する 場合のみ)	① 1学期：2月下旬～6月中旬 ② 2学期：7月中旬～10月中旬 ③ 3学期：11月～2月中旬※ ※開講科目数が少ないため留学は奨めない	A	学生寮, ホー ムステイ, ア パート	2名程度
		① 秋学期：2月（教育学部）, 3月 （教育以外）～7月上旬 ② 春学期：7月下旬～11月中旬（教 育以外）, 12月（教育学部） ※夏学期（11月～2月）は交換留学生の受入れなし	A	学生寮, ホー ムステイ, ア パート	4学期分以内

2 滋賀大学交換留学制度による派遣人数実績

大学名	国・地域	学生交流協定 開始年度	派遣年度					
			2014	2015	2016	2017	2018	
ミシガン州立大学連合	アメリカ	1989	2	4	3	1	1	
セントラルミシガン大学					1			
ノーザンミシガン大学				1				
イースタンミシガン大学								
オークランド大学								
フェリス州立大学				1				
サギノーバレー州立大学								
グランドバレー州立大学								
ミシガン大学アナーバー校					1	1	1	1
レイクスベリオル州立大学						1		
ミシガン大学ディアボーン校						1	1	
ミシガン州立大学								
ミシガン大学フリント校								
ミシガン工科大学								
ウェイン州立大学					1			
ウェスタンミシガン大学								
グアナファト大学	メキシコ	2004	1	1	2	2		
啓明大学	韓国	2007	1	3	2	1		
東北財経大学	中国	2005		1	1	1		
湘潭大学	中国	1999						
湖南師範大学	中国	2017	—	—	—	—		
国立高雄大学	台湾	2010	1	1	2	1		
国立高雄海洋科技大学	台湾	2009	1					
国立台中科技大学	台湾	2014					1	
チェンマイ大学	タイ	1999	2					
チェンマイラジャパット大学	タイ	2011			1			
泰日工業大学	タイ	2010						
人文大学	モンゴル	2007						
ハノイ教育大学	ベトナム	2004						
ノッティンガム大学マレーシア校	マレーシア	2015	—					
サウスイーストノルウェー大学	ノルウェー	2013	2	1	3	1	2	
ゾイド大学	オランダ	2015	—	1	3	2		
西部カトリック大学	フランス	2016	—	—	—	1	1	
ディーキン大学	オーストラリア	1973		1	1	1		
シドニー工科大学	オーストラリア	2016	—	—		1		

Ⅲ 協定大学紹介

以下では、本学と学生交流協定を結んでいる大学の交換留学プログラムについて、滋賀大学から留学した先輩たちから提供された情報をもとに紹介します。

各大学への留学に必要なビザ及び渡航後の在留手続き等の最新情報については、日本国内の大使館・領事館、現地の出入国管理事務所に必ず直接確認してください。また、外国籍で留学を希望する学生は、日本国内の自国大使館・総領事館等にも問い合わせるようにしてください。

1 主な協定大学の交換留学プログラム

○アメリカ合衆国 ミシガン州立大学連合（Japan Center for Michigan Universities）

(1) 大学の特徴

ミシガン州立大学連合（Japan Center for Michigan Universities: JCMU）は、ミシガン州の州立大学 15 校による連合です。ミシガン州は五大湖のうちスペリオル湖、ヒューロン湖、エリー湖、ミシガン湖の四つに囲まれており、湖を縁に琵琶湖を擁する滋賀県と姉妹提携を結んでいます。

1989 年、ミシガン州と滋賀県の提携 20 周年を記念して、JCMU 日本センターが彦根市に設立されました。日本センターは日本留学プログラムを開講しており、加盟校の在学学生等が日本センターに併設されている学



生寮で生活しながら日本語や本学で提供される英語による授業科目を履修しています。

JCMU のアメリカ事務局は、加盟校の一つミシガン州立大学に置かれています。加盟校 15 校は、アッパー半島とロウアー半島で構成される広大なミシガン州の全体に分散して位置しています。都市部や郊外といったキャンパスの立地、大学の規模（在学生数、開講プログラム数、キャンパスの広さ等）、力を入れている学問領域、留学生の割合、在学生の出身地構成等、大学ごとに異なります。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

JCMU 加盟校 15 校のうち毎年 3～5 校が滋賀大学からの交換留学先大学として指定されますので、派遣交換留学学内説明会で派遣先大学について確認のうえ、希望大学を数校選択して学内選考に応募してください。応募書類受付後に、書類・面接による学内選考を行い、合格となった学生は派遣候補者として各希望大学に推薦されます。希望大学から受け入れ内諾が届けば、交換留学の正式決定となります。

全ての加盟校が2学期制（一部の大学は夏期集中も開講）を採用していますが、本学から派遣される学生の留学開始時期は秋学期（8～9月）のみとなります。

JCMU 加盟校の交換留学を希望する人は、学内選考の応募時点で本学の定める英語力要件（TOEFL-iBTで79点以上のスコア）を満たしておく必要があります。要件を満たしていない場合、応募することができません。また、一部の大学への留学には本学の定める英語力要件よりも高い英語力を求められますので、これらの大学を希望する人は学内選考の時点でそれぞれの大学の定める最低点以上のスコアを取っておくようにしましょう。

・ミシガン州立大学連合加盟大学一覧

加盟校名	所在地	学生数 (人)	開講プログラム 学部+大学院	正規授業科目受講に 必要な語学力 TOEFL-iBTの最低点
セントラルミシガン大学 Central Michigan University	Mount Pleasant	27,000	200以上	79
ノーザンミシガン大学 Northern Michigan University	Marquette	9,000	147	61
イースタンミシガン大学 Eastern Michigan University	Ypsilanti	21,000	200以上	61
オークランド大学 Oakland University	Rochester	20,500	270	79
フェリス州立大学 Ferris State University	Big Rapids	14,000	180以上	61
サギノーバレー州立大学 Saginaw Valley State University	Saginaw	9,200	90	61
グランドバレー州立大学 Grand Valley State University	Allendale	25,000	126	79
ミシガン大学アナーバー校 University of Michigan Ann Arbor	Ann Arbor	4,200	265	88～106
レイクスペリオール州立大学 Lake Superior State University	Sault Ste. Marie	2,100	90以上	61
ミシガン大学ディアボーン校 University of Michigan Dearborn	Dearborn	9,300	115	80
ミシガン州立大学 Michigan State University	East Lansing	50,000	200以上	79
ミシガン大学フリント校 University of Michigan Flint	Flint	8,500	135	61
ミシガン工科大学 Michigan Technological University	Houghton	7,000	120以上	79
ウェイン州立大学 Wayne State University	Detroit	28,000	340	79
ウェスタンミシガン大学 Western Michigan University	Kalamazoo	24,000	254	80

② 授業

アメリカの大学で正規授業科目を受講する場合、1学期間に12単位（1科目は3単位）程度を履修します。科目によって開講形式は異なり、1週間2～3回に分けて授業が行われる科目もあります。一つの科目が担当教授による講義形式とディスカッション等を行うセミナー形式で構成された科目が多く、セミナー形式の授業では発言やグループワークで積極的な参加が求められます。

JCMU 加盟校はいずれも総合大学ですので、自分の専攻分野以外の科目を履修することも可能です。ただし、体育や美術関連の科目の単位は本学で単位認定されないこともあります。

現地の学生と一緒に授業を受講することになりますので、渡航前から英語のリスニングやスピーキングをしっかりと鍛える等の十分な準備をしてください。また、それぞれの授業で、宿題やグループワーク等の課題も多く課されます。予習・復習をきっちり行い、わからないことは担当の先生に質問・相談に行くというように、自分から学ぶ姿勢が必要です。

・ 留学生の時間割例①

月	火	水	木	金
	9:00-10:00 Introduction to Philosophy (Lecture)		8:00-9:00 Introduction to Psychology (Discussion)	
10:00-11:30 Principle Economics (Lecture)		10:00-11:30 Principle Economics (Lecture)	9:00-10:00 Introduction to Philosophy (Lecture)	
13:00-14:30 Introduction to Psychology (Lecture)		13:00-14:30 Introduction to Psychology (Lecture)	10:00-11:30 Principle Economics (Discussion)	
	16:00-17:00 Introduction to Philosophy (Discussion)		16:00-17:00 Introduction to Philosophy (Discussion)	

・ 留学生の時間割例②

月	火	水	木	金
9:30-10:45 World History of Music		9:30-10:45 World History of Music		
	12:30-13:45 B to B Business Marketing		12:30-13:45 B to B Business Marketing	
	14:00-15:15 Heterodox Economics		14:00-15:15 Heterodox Economics	
		18:00-20:45 Global Marketing		

・ 留学生の時間割例③

月	火	水	木	金
10:00-10:50 Introduction to Sociology	10:00-10:50 Introduction to Sociology	10:00-10:50 Introduction to Sociology	10:00-10:50 Introduction to Sociology	
11:00-11:50 U. S. History	11:00-11:50 U. S. History	11:00-11:50 U. S. History	11:00-11:50 U. S. History	
			14:00-17:50 Rock Climbing and Rappelling	
18:00-19:20 Introduction to Business		18:00-19:20 Introduction to Business		

③ 宿舎

大学によって異なりますが、基本的には大学キャンパス内や近くの学生寮に入居することになります。アパートタイプの学生寮（一つのアパートに複数のベッドルームと共同リビングルームがあり、数人で共同生活）もあります。学生寮の部屋には基本的な家具はそろっていますが、シーツ等は自分で購入かレンタルするようにしてください。

寮費は1学期間（4か月）で2,300～2,500ドル程度です。一部の大学の寮では、キャンパス内のカフェテリアで1日3食の食事が出来るミールプランと一緒に購入する必要があります。ミールプランの費用は、1学期間2,200～2,300ドルです。

学生寮は長期休暇中には閉鎖されることが多く、また、学期終了後には決まった期日までに退去する必要がありますので、注意してください。

・学生寮（セントラルミシガン大学）

留学生と現地学生の交流を目的とする寮があります。4人1部屋で、二人で共有する寝室とバスルーム、居間があります。居間には学習机が四つあります。寮の共有スペースには、食堂、自習室、フィットネスセンター、洗濯機、キッチン、水飲み場、自販機があります。寮の受付には学生スタッフがおり、相談や質問ができ、宅配物も預かってくれます。

ダイニングルーム付属の寮なので自炊の必要はなく、ミールプランはダイニングルームで使用できます。味も悪くなく、種類が豊富で好きなものを好きなだけ選べるのは便利です。

・学生寮（ノーザンミシガン大学）

大学から徒歩10分程度。二人用のベッドルーム2部屋、キッチン、バスルームがあり、4人が入居します。ベッド、机、クローゼットは各自一つずつあります。

・学生寮（フェリス州立大学）

キャンパス内に数か所あり、校舎からは徒歩で5～15分程度です。6畳半ほどの一つの部屋をルームメイトと共有します。トイレとシャワーを挟んで向かいにもう一つ部屋があり、バスルームは4人で共有します。ベッド、机、クローゼットはそれぞれ一つずつ、タンスは二人で一つあります。

・学生寮（レイクスペリオル州立大学）

大学構内にあり、キャンパス中心部から徒歩5分程度で行き来ができます。寮は一軒家で、4人が入居します。1階にキッチン、リビング、2階にバスルーム、二人用のベッドルームが2部屋あります。ベッドルームの広さは8～10畳ほどで、机が二つ備え付けられています。

・学生寮（ミシガン大学ディアボーン校）

キャンパスまで徒歩やシャトルバスで5～10分程度の所にあります。個室のベッドルームの他、個室と隣接して共同のキッチン、リビングルーム、バスルームがあります。寮費は光熱水道費込みで1か月8～9万円程度です。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 学期開始前の一定期間、大学最寄りの空港からの送迎サービスを留学生向けに提供している大学もあります。事前の予約・連絡が必要です。
- ・ ミシガン州では冬になると雪が大量に降ります。服装は外出する時はダウンコート、ニット帽、マフラー、手袋が必要です。

- ・ 授業以外にも、大学内のスポーツチーム、ボランティア団体、日本語の授業補助等の活動に積極的に参加し交流を広げましょう。大学の留学生センターや学生寮でも様々なパーティーやイベントが企画されます。日本についての紹介プレゼンテーション、ちらし寿司などの日本食の料理、日本語の会話練習の相手を頼まれることもあります。
- ・ 大学周辺にアジア食品等が売られているスーパーマーケットがある地域もありますが、車がないと買い物に行けない場合もあります。車を持っているアメリカ人学生に乗せてもらったり、週末等にキャンパスからスーパーマーケットに行く大学専用シャトルバスを利用したりしています
- ・ キャンパス内にはいろいろな施設があります。図書館（グループワークなどでクラスメイトと集まります）、ジム（毎日1時間体を動かしています）、スタジアム（試合を観に行くと無料でTシャツ等が貰えるので試合がある時は観に行きます【ミシガン大学ディアボーン校】）。
- ・ キャンパスは広大。芝生でピクニックや昼寝をしている学生が多くいます。アメフトやサッカーを開催するスタジアムがあり、学生はこれらの試合を無料で観戦できます。学内にはフィットネスセンターやランニングルーム、プールなどの施設が揃っており、学生は無料で利用できます。1ゲーム4ドルで遊べるボウリング場もあります。また、学内にスターバックスやタコス屋、セブンイレブンがあり、土日も営業しています【セントラルミシガン大学】。
- ・ 授業後はたいてい寮の自室で勉強しています。週末は、友人と一緒に料理をし、大人数で部屋に集まって食事を取ることが多いです。中国と台湾からの留学生は独自のコミュニティがあり、知合いの少ない私をすごく気にかけてくれます。よく料理を振舞ってくれます。すごく親切です。少なくとも週に一度は集まってパーティーなどをしていて、そこによく誘ってもらっています【ミシガン大学ディアボーン校】。

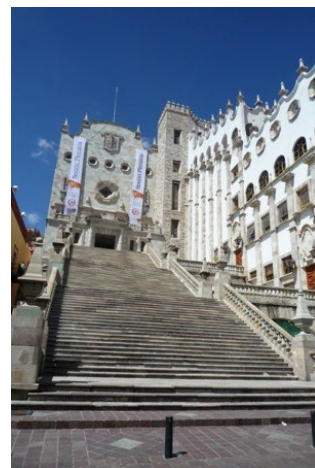
○メキシコ合衆国 グアナファト大学 (Universidad de Guanajuato)

(1) 大学の特徴

1732年にイエズス会が創設、1828年にグアナファト州に移管され、1945年にグアナファト大学となりました。メキシコで厳選された学術機関のみに与えられる「全国大学・高等教育機関連盟」資格を持ちます。

建築学、会計・経営学、教育学、理学、工学、医学、文学等の学部で、博士課程、修士課程、学士課程を含む多彩なプログラムが提供されています。

メキシコ中部の世界遺産の街グアナファトの市内に二つのキャンパスがある他、州内にいくつものキャンパスを有しています。標高が海拔2,000メートル近くに位置するグアナファトは、銀山に恵まれ、色彩豊かな美しい建築も多く、メキシコ国内有数の治安の良い街でもあります。



(2) 交換留学プログラム

① 概要

授業は8月初め～12月上旬の1学期と1月～6月の2学期に開講されます。滋賀大学からの交換留学生は、それぞれのスペイン語能力によって、以下の三つの留学形態を選択します。

なお、交換留学の学内選考では、滋賀大学海外研修プログラムのメキシコ語学・文化研修の参加者を優先します。

(1) 初級スペイン語力の学生（1年間コースのみ）：1学期目は語学学校でスペイン語の学習、2学期目は正規授業科目を履修する。

(2) 基本的なスペイン語力のある学生：1学期目は語学学校でスペイン語2科目と正規授業の入門レベルの科目を2科目履修する。2学期目は正規授業科目のみ履修可能。

(3) 中級以上のスペイン語力のある学生：正規授業科目を1学期につき4科目履修する。

語学学校では語学力に応じたクラス編成となるので、スペイン語何級といった要件はありませんが、スペイン語を1年以上学習していることが交換留学の応募要件となっています。

② 授業

語学学校での授業は、説明もすべてスペイン語を使って行われます。このため、滋賀大学での授業内容と同じレベルであっても、最初のうちは大変かもしれません。語学学校の校舎は、本校舎とは少し離れた所にあります。スペイン語の授業の他に英語、フランス語、ドイツ語、中国語、日本語の授業も同校舎で開講されています。授業終了後等に日本語学科のメキシコ人学生と会話の練習や、交流をすることができます。

学部の正規授業科目は、現地の学生と同じ授業を受講します。経済学系の学部のすべての講義は、30人未満で行われています。日本と同様に、小テスト、レポート提出等による成績評価に加え、個人やグループによるプレゼンテーション課題を複数回行い、成績がつけられます。

・ 留学生の時間割例①（1学期目を語学学校スペイン語授業のみとする場合）

月	火	水	木	金
9:00-10:00	9:00-10:00	9:00-10:00	9:00-10:00	
Literatura 文学	Literatura	Literatura	Literatura	Gramatica 400
10:00-11:00	10:00-11:00	10:00-11:00	10:00-11:00	
Lectura メキシコ文化	Lectura	Lectura	Lectura	Conversación 400
11:00-12:00	11:00-12:00	11:00-12:00	11:00-12:00	
Historia 歴史	Historia	Historia	Historia	
13:00-14:00	13:00-14:00	13:00-14:00	13:00-14:00	
Gramatica 400 文法	Gramatica 400	Gramatica 400	Gramatica 400	
14:00-15:00	14:00-15:00	14:00-15:00	14:00-15:00	
Conversación 400 会話	Conversación 400	Conversación 400	Conversación 400	

・ 留学生の時間割例②（正規授業科目のみ受講の場合）

月	火	水	木	金
	7:30-9:00		7:30-9:00	7:00-10:00
	Contabilidad Financiera (財務会計)		Contabilidad Financiera	Finanzas Corporativas (コーポ レートファイナンス)
	14:00-16:00			
	Mercad tecnia Internacional (国際 マーケティング)			
18:00-20:00		18:00-20:00	18:00-20:00	
Mercado America Latina (ラテンアメリカ 市場)		Mercado America Latina	Mercad tecnia Internacional	

③ 宿舎

大学附属の学生寮はないため、大学が紹介してくれるメキシコ人家庭にホームステイをすることを薦めます。すでに長い交流関係を育んでいる日本の大学からの留学生を受け入れてきた経験豊かで親日的な家庭が多いようです。ホームステイ先から大学へは徒歩かバスで通学します。ホームステイの費用は、食費と光熱費込みで 30,000 円弱です。

少し生活に慣れてから、アパートを借りてルームシェアをする学生もいます。キッチン、居間、トイレ、バスルームは共用の物件で、光熱費込みの家賃は月額 12,000 円程度です。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ グアナファトでの生活費は、宿舎の費用、交際費、服や日用品の購入費用を合計して 1 か月 60,000 円程度です。物価は日本に比べると格段の安さです。
- ・ グアナファトはメキシコ国内では治安が良い方ですが、夜間になるとあまり治安が良いとは言えません。
- ・ 朝晩は風が強く気温が 10 度を切る一方、日中は日差しが強く気温も 20 度を超えるため、服装の調節に気を使う必要があります。

- ・ キャンパス内に外国語学習施設 CADDI があります、スペイン語はもちろん、英語、ドイツ語、フランス語、韓国語といった様々な言語を学ぶことができます。それらの言語関係の本が多く設置されていて、1 時間ほどの会話の授業も無料で受けられます。また、ここではチューターと会話のレッスンができるほか、書籍や視聴覚教室が充実しています。
- ・ キャンパス周辺には、安いレストラン、カフェテリア、文房具屋等があり、学生の街らしい雰囲気です。
- ・ DCEA 経済学キャンパスは芸術学部が隣接しているということもあり、経済学部生のみならず、音楽やアートなどの芸術専攻の学生とも積極的に交流を図っています。そのため、芸術学部の施設内でのピアノの公演や現代音楽の公演に足を運ぶ機会がありました。また、キャンパスのすぐ近くに運動公園があるため、休日に友人や知人と集まりフットサルをしたり、バスケットボールをするなど体を動かしています。
- ・ 所属キャンパスで留学生チームを結成し毎週試合をしているため、サッカーを通じた異文化理解を深められていると感じています。メキシコ国内の留学生をはじめ、アルゼンチンやペルーといった南米の学生、ドイツやスペイン、フランスの学生と一緒にプレーするため、それぞれの国のサッカー文化が混在する中、チームワークを発揮し勝利という結果が得られることに充実感を感じています。また、試合を離れても普段から一緒に出かけたり、食事をしたりして相互理解を深め、それがチームの団結を深めていると思います。
- ・ 学業以外に週に一度、日本語学科で会話授業のボランティアを行っています。週に一度2クラスを担当しています。日本語学科で出会った友達と遊ぶことがほとんどです。一緒にご飯を食べに行ったり、日本料理を作ったり、学校の中庭で話したりと、彼らととても楽しい時間を過ごしています。その中のメキシコ人が演劇をやっているのので、たまに彼の活躍を見に劇場まで足を運んだりもしています。日本語吹き替え研究会にも所属し、日本語⇄スペイン語のアニメやドラマ、映画の吹き替えにも挑戦しています。メキシコ人と遊ぶことが多いですが、クラスメイトの中国人の女の子たちとも仲良くしています。

○大韓民国 啓明大学 (Keimyung University)

(1) 大学の特徴

戦争で荒廃した国の復興のためには高等教育が必要という考えのもと、アメリカのキリスト教プロテスタント長老教会の宣教師らが 1954 に設立した啓明キリスト教学院を前身とします。1978 年に大学として認可を受けました。

人文、国際学、教育、社会科学、法経、自然科学、環境、工学、医学、看護、音楽芸術、体育、建築学、教養教育等の学部が設置されています。日本語や日本研究を専攻する学科があり日本語を学ぶ学生が多くいます。また、啓明アダムスカレッジ (Keimyung Adams College: KAC) は、すべての授業を英語で行う国際系の学部です。



啓明大学は、世界各国に交流協定校数多くを持ち、留学生の派遣・受入れに積極的です。啓明大学の日本語劇ツアーや交換留学のように本学とも大変活発な交流が行われています。

韓国南部の都市である大邱（テグ）郊外に位置する美しいキャンパスは、映画やドラマのロケ地としても使用されています。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

啓明大学の学期は、3月初め～6月中旬の春学期と9月初め～12月中旬の秋学期に区分されています。交換留学生は、希望と語学力によって、国際教育センターの韓国語コース、韓国語で行われている正規授業科目、KAC や他学部が提供する英語による正規授業科目を組み合わせることで履修することになります。

韓国語での授業科目の講義を受講するには、一定の韓国語力が必要です。また、KAC 等の学部が提供する英語による正規授業科目の履修を希望する場合には、学内選考への応募時点で TOEFL-iBT 60 点以上の英語力が求められます。

② 授業

・ 留学生の時間割例①（主に英語による科目受講の場合）

月	火	水	木	金
9:00-12:00 Korean Language Practice II 韓国語			9:00-10:15 Advanced English Conversation II	
	10:30-11:45 Communication English II	11:00-12:50 Tae-Kwon-Do		10:30-11:45 English Composition
15:00-16:15 Advanced English Conversation II	12:00-13:15 English Composition I			12:00-13:15 Food& Nutrition
	15:00-16:15 Food& Nutrition	15:00-18:00 Korean Language Practice II 韓国語		
			16:30-17:45 Communication English II	

・留学生の時間割例②（韓国語による科目受講の場合）

月	火	水	木	金
10:30-11:45 データベース設計	10:30-11:45 経営情報学概論			10:30-11:45 東アジア経済と日本の通商政策
12:00-13:15 ホテル経営学概論	12:00-13:15 東アジア経済と日本の通商政策		13:30-14:45 データベース設計	10:30-11:45 TOPIK読解
	15:00-16:15 TOPIK読解	16:30-17:45 ホテル経営学概論	16:30-17:45 経営情報学概論	

国際教育センターの韓国語の授業では、様々な国・地域から来た留学生と一緒に韓国語を学習します。少人数なので質問がしやすく学びやすい環境です。

学部開講の韓国語で行われている授業科目は多種多様で、自分の興味のある科目を履修することができます。配布資料やスライドで英語や日本語が使われている授業もありますが、説明は韓国語で行われます。グループディスカッション、発表、レポートを書くことも韓国語ですので、毎回の予習・復習を行い、分からないところは友達や先生に聞く等して理解に努めましょう。

学部の英語による授業科目は、多くの場合、英語ネイティブスピーカーの教授が担当しており、欧米式の学生の発言や議論を重視する授業形式で行われます。すべての授業で、プレゼンテーションやディスカッションといった課題が課されます。

また、日本の大学とは異なり、科目の授業時間の長さが様々で、一つの科目を1週間に数回に分けて授業が行われていたり、昼休みもないため、時間のやり繰りに慣れていく必要があります。授業の課題提出も頻繁にあり中間や期末の定期試験は範囲も広いいため、授業時間以外の学習も相当時間必要です。

③ 宿舎

大学構内の学生寮に入ることができます。学生寮エリア一帯には何棟もの寮があり、一般寮、英語を話す学生のための寮、日本語を学習したい韓国人学生のための寮等があります。寮内の居室は、学習机、ベッド、クローゼットが一人一つずつ備え付けられた二人部屋（洗面所、シャワー、トイレは共用）が多いようです。学生寮の近くの食堂を利用できる食事付きプランを選ぶこともできます。寮費は平日朝夕 2 食の食事付きプランで 1 学期間（4 か月間）約 10 万円と格安です。

現地の生活に慣れてきた 2 学期目からは、大学周辺のアパートに移る留学生もいます。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 啓明大学の学生がバディとしてついてくれ、日常生活で困ったこと等あれば相談することができます。バディは留学開始前から連絡をとることができ、到着時の大学までの送迎等もしてくれます。
- ・ 定期試験が近づくと図書館が 24 時間開放され、寮では夜食が出て、自習室が深夜まで使えるようになるため、どの学生も毎晩夜遅くまで起きてテスト対策や授業の予習に取り組んでいます。
- ・ 学内にあるインターナショナルラウンジでは世界各国の文化やゲームを紹介するイベント等を行っており、多くの外国人留学生や韓国人学生と知り合うことができます。また、ラウンジには語学教材や DVD も揃っています。ラウンジで行われるイベントも多くあり、その中の一つで International Day という、現地の小学生や中学生を招いて外国の文化を紹介するイベントがあります。日本の International Day もあり、滋賀大生もプレゼンターとして参加しています。
- ・ 昼食は大学構内の食堂で、一食 500 円弱で食べられます。
- ・ 大学の東門や南門の近くには、飲食店が多く、寿司屋や日本食レストランもあります。放課後や金曜日は学生でにぎわいます。スーパー、携帯電話ショップ、日用品店、文房具店、カラオケ店等もあるので生活しやすい所です。
- ・ キャンパス周辺には地下鉄駅が 2 駅あり、一律運賃で大邱市中心部まで行くことができます。

○中華人民共和国 東北財經大学 (Dongbei University of Finance and Economics)

(1) 大学の特徴

1952年に大連の複数の経済系の専門学校が統合され、前身である東北財經学院が開設されました。

国の先端学問分野とされている産業経済や会計学、省の先端学問分野とされている統計学、金融学、財政学等の専門課程が充実している一方、経済学、経営学を主眼に法学、文学、理学を学ぶこともできる学際型の大学です。積極的な国際化を進めており、世界各国からの留学生が学んでいます。

キャンパスは中国東北部の港湾、工業、貿易、観光の中心地である大連市に位置しており、近隣には美しい景観で人気の観光地である星海公園があります。大連の治安は中国で群を抜いて良いと言えますが、日本と同じようなレベルで治安状況でないことには注意が必要です。



(2) 交換留学プログラム

① 概要

滋賀大学からの交換留学生は、東北財經大学附属の国際漢語文化学院で中国語コースを受講することが中心となります。

学期は9月～1月初めと2か月間の冬休みを挟んで3月～7月中旬に開講されます。国際漢語文化学院での中国語学習以外にも正規授業科目を受講することも可能ですが、授業は基本的に中国語で行われるため、HSK（漢語水平考試）6級以上の中国語力が必要となります。

② 授業

国際漢語文化学院の中国語の授業は、午前中3時間のみとなります。読解、聞き取り、会話の授業をレベル別クラスで受講します。

午後は自由時間になるので、過去には東北財經大学の近くにある中国語の学習塾に通っていた滋賀大生もいます。

・留学生の時間割例

月	火	水	木	金
8:10-9:50	8:10-9:50	8:10-9:50	8:10-9:50	8:10-9:50
読解	聞き取り	読解	読解	会話
10:10-11:50	10:10-11:50	10:10-11:50	10:10-11:50	10:10-11:50
聞き取り	会話	会話	会話	読解

③ 宿舎

校舎から徒歩 5 分ほどの距離にある学生寮で、留学生活を送ることができます。学外のアパートに住むことも可能です。学生寮は一人部屋、二人部屋等から選べます。二人部屋ではリビング、シャワー、トイレを二人で共用します。寮費は月額 25,000 円ほどです。食事は共用キッチンで自炊することも可能ですが、外食を手頃な価格でとることができます。

また、断水や停電が頻繁にあり、シャワーが使えないことや排水溝が詰まったりするトラブルもあるようです。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 学内で中国人学生の外国語クラブの日中交流会や大連市内の大学で日本語を学習している学生グループの交流会が、多く開催されています。
- ・ キャンパス内で食事を取る時は学食やコンビニが便利です。大学の北門や東門周辺に食堂、カフェ、屋台等もたくさんあります
- ・ 大学周辺はお店も結構な数があるので、普段の生活に困ることはありません。大学の西門側にショッピングセンターがあり、地下にはウォルマートが入っています。基本的に他のスーパーより品物の値段が安いので、普段の買い物はここを利用するとよいでしょう。大学からバスで少し行った所にある大きなショッピングセンターは、映画館などもあり便利です。
- ・ キャンパス周辺への移動手段はバスが便利です。1 回約 15 円で乗車できます。
- ・ 地下鉄が延伸され、大学から市内各地へのアクセスが非常に良くなりました。空港へも地下鉄で行くことができるようになりました。
- ・ キャンパス周辺は日中は賑やかですが夜 9 時を過ぎると人通りが急激に少なくなるので、一人で出歩かない方が安全です。
- ・ 大連は 11 月以降、寒さが厳しくなり、最高気温がマイナスになる日もあります。加湿をし、栄養が偏らないように食事を取る等の自己管理が必要です。
- ・ キャンパス内の運動場は、平日の夕方以降と休日に一般に開放され、利用することができます。

○台湾 国立高雄大学 (National Kaohsiung University)

(1) 大学の特徴

国立高雄大学は、2000年設立の新しい大学です。台湾の高等教育政策と産業発展政策に基づき、高雄の中小産業の支援と発展、地場産業の高度化・活性化を担う人材の育成を目指して、設立されました。地域に開かれた大学を理念に掲げており、生涯学習講座、イベントの開催、学内施設の開放等の様々な取り組みが行われています。



大学は人文社会科学学院、法学院、管理学院、理学院、工学院等の学部を擁しています。人文社会科学学院には東アジア語文学科も設置されており、学科の学生は日本語、韓国語、ベトナム語の3専攻に分かれて学んでいます。

高雄は、台湾では台北に次いで二番目に大きい都市であり、南部の中心都市です。広大なキャンパスは、市中心部から15kmほど北の楠梓区に位置しています。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

学期は秋学期が9月～1月、春学期が2月～7月です。滋賀大学からの交換留学生は、主に大学附属の語学センターで中国語を学びます。同時に、英語で行われる学部の正規授業科目を履修することができます。中国語力が高い場合には中国語による正規授業科目の履修も可能です。

交換留学期間中の高雄大学の授業料は免除になりますが、交換留学生登録費用として1学期で3,000台湾元または2学期で5,000台湾元を別途支払う必要があります。

② 授業

語学センターでの中国語の授業は、交換留学生用のクラスとなります。開講されている授業が少なく時間も短いので、留学中は各自で工夫して授業以外で中国語を学習する機会を作る必要があるでしょう。台湾人学生の語学チューターとの中国語学習や日本語を学びたい台湾人学生との語学エクスチェンジ等が有効な方法です。

・留学生の時間割例①（語学センターの中国語と中国語による正規授業科目の受講）

月	火	水	木	金
	9:05-12:00 アジア太平洋の人的資源管理			
15:15-17:10	16:30-18:30	16:20-18:20	15:15-17:10	
中国語読解	語学センター中国語	東南アジアと台湾	中国語会話	

中国語による正規授業科目は、外国語を専攻していない台湾人も受講しており、授業が理解できる程度の中国語能力が必要な他、普段の予習復習が欠かせません。

英語で行われる正規授業科目は留学生だけでなく、台湾人学生とも一緒に授業を受けるので、中国語に触れる機会にもなります。

・留学生の時間割例②（主に中国語による正規授業科目の受講）

月	火	水	木	金
9:05-12:00	9:05-12:00	10:10-12:00		
研究方法论	文学研究	高級韓国語		
	13:10-15:00	13:10-15:00	13:10-16:05	
	日本語翻訳	韓国語通訳研究	用英語介绍台湾 (英語)	
15:15-17:10		18:00-21:00		
中国語会話		語学センター中国語		

③ 宿舎

交換留学生は、大学構内にある学生寮または大学近くの宿舎に入居できます。

学生寮には一人部屋と4人部屋があります。4人部屋には、上段にベッドがついた机が四つ並んでいます。トイレ、シャワー室、洗濯機、水飲み場（熱湯も出る）は各フロアにあります。地下1階にゴミ捨て場、1階には飲み物とカップ麺の自動販売機とTV、ピアノ、ビリヤード台の置かれたラウンジがあります。2階から寮内の食堂に行くことができます。学生寮の費用は、1学期間（4か月間）の寄宿料が26,000円程度、光熱費が1,200円程度です。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 到着後に行われるオリエンテーションでは、寮の入居や所属学科の確認等の手続きが行われます。中国語のクラス分けテスト、健康診断、携帯電話の契約等が行われます。留学生向けの交流イベントもあります。
- ・ 交換留学生の出身別の割合は、半分以上が日本、次にインドネシア、韓国、東ティモール、モンゴルが続きます。
- ・ 東アジア語文学科には、海外映画の鑑賞会、カラオケ大会、マラソン大会等の様々な課外活動があり、参加することができます。日本語を専攻している学生もいます。国籍を超えて、いろいろな友達と交流できる機会です。
- ・ キャンパスが広く授業のある建物も離れているため、学生が移動のために自由に使える黄色い自転車が構内に置かれています。
- ・ 図書館の地下に書店があります。書籍だけでなく、生活雑貨や文具、駄菓子もあります。クレジットカードも使えます。
- ・ キャンパス内に学生食堂が二つある他、大学周辺にもショッピングセンターや安い食堂が多くあり、食事には困りません。一食およそ70元（約250円）から100元（約350円）あれば台湾の色々な美味しいものを食べることができます。

- ・ 高雄市内には無印良品、ユニクロ、ダイソー等の日本のお店や日本食のお店が数多くあります。学校の近くに24時間営業のコンビニエンスストアがあります。物価は日本より大分安いです。

○台湾 国立台中科技大学 (National Taichung University of Science and Technology)

(1) 大学の特徴

国立台中科技大学は、1919年設立の台中商業学校を前身とする台中技術学院と看護系の台中護理專科学校が2011年に統合されたことにより設立されました。

現在は、商学、設計、情報流通、言語学、健康科学の5学部を擁しています。日本語専攻があり、交換留学制度で滋賀大学への留学経験のある学生や留学を希望している学生がいます。

キャンパスのある台中市は、台北、高雄に次ぐ台湾第三の都市で、台湾中部の経済文化の中心として活気のある街です。



(2) 交換留学プログラム

① 概要

台中科技大学では1学期が9月中旬～1月中旬、2学期が2月中旬～6月中旬です。学期中、中国語で行われる教養科目や専門科目等の正規授業科目を受講することができます。

交換留学生は学年クラス関係なく、履修が可能です。受講するための語学力要件は設けられていませんが、授業を理解することができる中国語力が求められます。留学生用の中国語クラスは開講数があまり多くありません。

② 授業

授業はすべて中国語で行われます。グループワークもあるので、中国語によるコミュニケーション力が求められます。

学生と教員の距離が近く、質問しやすい雰囲気です。

・ 留学生の時間割例

月	火	水	木	金
	8:10-10:00 日文企業専書選譚			
	10:10-12:00 産業日語	13:25-15:10 日文翻訳	10:20-12:00 中日筆譚	
15:20-17:05 国際企業管理	15:20-17:05 日本市場マーケティング	15:20-17:05 中日口譚	15:20-17:05 ホームルーム	
18:10-20:00 生活華語初級				

③ 宿舍

大学キャンパスから徒歩5分の学生寮に入居できます。4人部屋で寮費はひと月およそ3万6千円です。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 大学、学生寮は交通至便で生活必需品を購入することのできるお店も多くあります。
- ・ 蚊が多いため、蚊取り線香、虫除けスプレー、かゆみ止め薬が必要です。

○タイ王国 チェンマイ大学 (Chiang Mai University)

(1) 大学の特徴

タイ北部最初の高等教育機関として、科学、社会科学、人文学の3学部で1964年に開学した国立大学です。その後、経営学、教育学、芸術学、医学、獣医学、工学、農工学、建築学等の学部を加え、現在も発展を続けています。学生数は約2万4,000人に上り、タイ国内屈指の総合大学として、また、タイ北部の学術研究拠点として高い評価を受けています。キャンパスは古都チェンマイの新市街に位置していますが、広大な敷地には昔からの自然環境も残されています。



チェンマイは、タイの中でも比較的治安の良いことで知られています。街中の至る所に寺院があり、落ち着いた雰囲気のある街です。気温は年間を通して涼しく過ごしやすいため、観光客や定年退職後の日本人のロングステイ先としても人気が高い街です。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

チェンマイ大学の学期は1学期が8月中旬～11月下旬、2学期が1月初め～5月上旬です。5月半ば～8月上旬は夏期集中の科目が開講されます。

滋賀大学からの交換留学生は、教育学部で開講される外国人留学生向けのタイ語講座及びタイ語で行われる正規授業科目のうち実習科目（タイダンス、フルーツカービング、料理、スポーツ科目等）を中心に履修します。外国人留学生向けのタイ語授業は授業料免除の対象にはならないため、1学期約14万円を自己負担する必要があります。

教育学部以外の科目の履修については、現地のコーディネーターに相談の上、認められることもあります。原則として履修できるのは教育学部での開講科目のみです。

② 授業

・留学生の時間割例

月	火	水	木	金
7:00-8:00				
Activity of Tennis				
		10:00-12:00 教育学部のタイ語講座		
13:00-15:00 教育学部のタイ語講座	13:00-15:00 教育学部のタイ語講座	13:00-16:00 Thai Food Career	13:00-15:00 教育学部のタイ語講座	13:00-15:00 教育学部のタイ語講座
	15:00-16:30 Language Instituteのタイ語			15:00-16:30 Language Instituteのタイ語

外国人留学生向けタイ語授業は、1クラス2～3人程度の少人数で月～金曜日の毎日2時間ずつ受講します。タイ語は学期の後半に入るとより一層難しい分野を扱い、毎日の復習が追い付かなくなるほどです。

正規授業科目の実習科目は、実践して学び、タイの文化等の学習内容についての理解を深めていきます。例えば、タイ料理の授業では、タイ料理の校内販売を行ったり、班に分かれて材料調達係、配膳係、下準備係、広報係等の担当を決めてビュッフェ形式のタイ料理を作って、実際に客に食べてもらい、一人あたりの単価、材料費はいくらにするか、利益はいくらになるのかというところまでを一貫して行い、事後レポートを提出するという最終試験が課されました。

③ 宿舎

大学の学生寮ではなく、大学の近辺のアパートに入居することになります。アパートは大学から紹介してもらうこともできます。家賃は20,000円程度で、必要な家具等は揃っています。水道光熱費は実費を支払います。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ タイでは、学生は授業のない時間や授業後に友達同士で体育館や球技場でテニス、バドミントン、ソフトボール等のスポーツをすることが多いようです。
- ・ チェンマイ大学のキャンパスはとても広く、構内の移動には構内を走る小さな乗り合いバスを利用することができます。
- ・ 食堂は学部ごとにあります。キャンパス付近には、屋台や料理店も多くあります。屋台は安くて便利ですが、衛生面では料理店に劣るため、特に生もので下痢や食あたりを起こすこともあるようです。利用する際は注意が必要です。
- ・ 狂犬病には十分注意してください。チェンマイには野良犬が多く、特に夜間は追いかけてくる犬もいて大変危険です。触ったり撫でたりしないようにし、決して噛まれることのないよう心がけてください。
- ・ 過去には、交換留学期間中に、児童養護施設のボランティアや山岳民族との交流に出かけた学生もいました。チェンマイから6時間ほど行ったナーン県の山岳民族との2泊3日の行程の交流は、電気も水も寝るところも最低限のものしかない環境に身を置くことができ素のままの生活を体感できる貴重な機会になったようです。

○タイ王国 チェンマイラジャパット大学 (Chiang Mai Rajabhat University)

(1) 大学の特徴

タイ全土に40校あるラジャパット大学の一つです。ラジャパットとは「国王に仕える官吏」の意味で、教員養成を主な役割としていましたが、現在では、各地のラジャパット大学は、地域社会への貢献を理念とする地域総合型大学へと発展しています。

チェンマイラジャパット大学は1924年に北部農業教員養成学校として創立され、幾度かの改編を経て2004年に



現在の校名となりました。地域社会に貢献できる技術者・職業人の養成に力を入れているため、夜間部や週末の授業開講も積極的に行われています。

チェンマイラジャパット大学は、本学の中でも特に教育学部との交流に長年の実績があります。交換留学及び短期研修の派遣と受入れを通じた学生交流が、毎年活発に続けられています。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

チェンマイラジャパット大学では、外国人のためのタイ語の授業が開講されています。また、ほとんどの学部正規授業科目はタイ語で授業が行われていますが、International College には英語による授業科目もあり、留学生はこちらでの科目を中心に履修します。

語学力や希望により、どのような科目を受講するかは異なります。留学開始時にタイ語のテストを受け、その結果をもとに授業履修計画を立てます。タイ語のテストに合格すると、2学期目にタイ人学生と一緒に正規科目（実習中心）を履修することも可能です。

各学期の開講時期は、1学期は6月～10月（International College は8月～12月）、2学期は10月下旬～3月（同、1月～5月）です。

② 授業

・留学生の時間割例(タイ語の授業と英語による正規授業科目を併修した場合)

月	火	水	木	金
8:00-11:00		8:00-11:00	8:00-11:00	8:00-11:00
International Business Management		Cross-Culture Communication in Business	Analytical Reading	Chinese
11:00-14:00		11:00-14:00	12:00-15:00	12:00-15:00
Thai Speaking		Personality Development	Human Resource Management	Business English Reading
		15:00-18:00	15:00-18:00	15:00-18:00
		Thai Speaking	Thai Speaking	English for Communication and Study Skill

タイの大学では、正規科目の授業では小テストを頻繁に実施して、授業内容の理解の確認を行うことが多いようです。1限目の授業は開始時間が早いので、規則正しい生活を心がけましょう。授業の時間も日本の大学より長いため、積極的に授業に参加するためにも集中力を維持できるように努めてください。

③ 宿舎

交換留学生は、学内にある留学生専用の学生寮に入れます。寮は二人部屋で机、ベッド、エアコン、ダンス、シャワー、トイレ、テレビ、冷蔵庫、洗面所、ベランダがついています。家賃は8,500円ほどですが、一人で部屋を使う場合には倍の約16,000円となります。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 学生寮の前にサーラーロンポーという集会所があります。イベントが行われたり、友達からタイ語を学んだり日本語を教えたりと交流の場所です。
- ・ 留学生も大学指定の制服（約 1,700 円）を着用します。
- ・ タニン市場という市場は大学から徒歩で 5 分程度の距離にあり、食事や服、薬局もあり便利です。
- ・ 狂犬病には十分注意してください。チェンマイには野良犬が多く、特に夜間は追いかけてくる犬もいて大変危険です。触ったり撫でたりしないようにし、決して噛まれることのないよう心がけてください。

○ノルウェー王国 サウスイーストノルウェー大学 (University of South-Eastern Norway)

(1) 大学の特徴

北欧ノルウェーの南西部に、複数のキャンパスを持つ公立大学です。学生数 18,000 人、教職員数 1,500 人のノルウェー有数の大規模校です。

1994 年創立のブスケレード大学とベストフォルド大学の 2 大学が 2014 年に統合され、ビジネス、法律、工学、教員養成、海事学等の学科を擁する総合大学となり、2016 年には、サウスイーストノルウェー大学に改称されました。



首都オスロから西へ鉄道や車で 1~2 時間という至便な場所に八つのキャンパスを構えています。いずれのキャンパスも、森林に囲まれた自然豊かな落ち着いた環境にあります。一つのキャンパスに在籍する学生数は多くはないので、アットホームな雰囲気です。

近年は、受入れ留学生数の増加に積極的に取り組んでおり、従来のノルウェー語による授業科目以外に、英語による正規授業の授業科目群プログラムを各キャンパスで増設しており、ヨーロッパを中心に世界各地から留学生を受け入れています。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

全学でほとんどの授業がノルウェー語で行われていますが、交換留学生向けに、半期で 30ECTS (ヨーロッパ共通の単位)、年間で 60ECTS を取得できるよう英語による正規授業の科目群プログラム (1 科目の単位数が 7.5ECTS の科目が多い) が準備されています。

30 以上の英語による科目群プログラムがあります。滋賀大学からの交換留学生は、ビジネス・観光マネジメント、ビジネス、ノルウェー文化、アウトドア教育・実習、体育・スポーツ文化、英語学等の英語による科目群プログラムの受講が可能です。選択するプログラムによって所属キャンパスが異なります。学内選考の応募時点で本学の定める英語力要件 (TOEFL-iBT65 点あるいは IELTS6.0 以上) を満たしておく必要があります。要件を満たしていない場合、応募はできません。

学期は秋学期が 8 月中旬～12 月上旬、冬・春学期が 1 月～5 月です。また、5 月下旬～6 月に 4 週間集中のサマースクールの受講も可能です。サマースクールは国際マネジメントや国際マーケティングをテーマとし、ノルウェー人学生と共にアメリカからの交換留学生が多く参加しています。

② 授業

・留学生の時間割例① (ビジネス・観光マネジメント)

月	火	水	木	金
	8:15-12:00	8:15-12:00	8:30-12:00	
	Inter-organizational Relationships and Negotiation	Consumer Behavior	Travel and Tourist Market	
12:15-15:00				
Norwegian Language and Culture				

・留学生の時間割例② (英語学)

月	火	水	木	金
			8:30-11:45	
			British and Commonwealth Studies	
12:15-15:45				
English Language and Communication				

一つの科目の授業時間が長く、授業中のディスカッションも度々行われます。リーディング、レポート作成等の変多量の課題が毎週のように課されるため、授業以外の学習にもかなりの時間を費やします。グループワークを行う課題もあり、授業の空き時間にグループの学生同士で集まって課題に取り組むことも多くあります。

定期試験は記述式の他、口頭で行われるものあり、日本とは異なる授業形態や試験の形式に戸惑うこともあるようです。

③ 宿舎

交換留学生は、講義棟と近接した学生寮あるいはキャンパスから徒歩数分から数十分の距離にある学生アパートに入居できます。学生アパートは、居室以外の設備（トイレ、シャワーは二人で、キッチンとリビングルームは4人でなど）は他の入居者と共有するシェアタイプのものやトイレ、シャワー、洗面所が各居室に付いておりキッチンと洗濯機は共有する個室タイプのものがあります。

学生アパートの家賃は所属キャンパスによって月額30,000～70,000円（光熱費、ネット接続料込み）と値段に差があります。入居時にデポジット（退去時に返却）が別途必要です。洗濯機の使用は有料です。台所用品や寝具等の生活に必要な最低限の物は部屋に備わっているか学生課に申請すれば有料で貸し出しが受けられます。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 各キャンパスは小規模ですので、学生や教職員とすぐに顔なじみになることができます。日常の困ったことや悩みの相談、留学生の交流活動や課外旅行の企画・運営、学生の自由旅行手配サポートのように留学生担当スタッフによるきめ細かい対応と支援を受けられます。
- ・ 学生宿舎にはヨーロッパ出身の留学生、ノルウェー人学生が多く入居しており、少数ですが中国、台湾、韓国、中南米、アフリカからの留学生もいます。宿舎の共有スペースでは、パーティーを開いたり、一緒に映画を見たりと交流する機会も多いです。
- ・ ノルウェー人はかなりパーティーが好きなので、毎週金曜、土曜は必ずどこかでパーティーが開催されています。また、大学内にバーがあるのでそこでもいろいろなパーティーが開催されているようです。
- ・ 物価が高いため、自炊を心がけるなどの節約しながらの生活が必要です。
- ・ 一部のキャンパスには近くにスーパーマーケットやショッピングセンターがあり普段の生活は問題なく過ごせますが、銀行や郵便局は隣町にしかなく不便を感じることもあるようです。
- ・ 秋、冬は寒さが厳しく、最も寒い時期には日中気温が-20℃まで下がる日もあるため、厚手のコート、手袋、帽子等の防寒着が欠かせません。外が寒く授業の予習復習が忙しいため、運動不足になりがちです。大学のジム等で体を動かして体調の維持管理に努めましょう。

○オランダ王国 ゾイド大学 (Zuyd University of Applied Science)

(1) 大学の特徴

オランダの高等教育機関には、アカデミック型の総合大学と専門職業教育を担う応用科学大学の2種類があり、ゾイド大学はオランダ全土に50校近くある応用科学大学の中でも最大級の規模を誇ります。

オランダ南部の3都市にキャンパスを持ち、英語による授業科目が受講できる国際ビジネスコミュニケーション学部(FIBC)は、ベルギー、ドイツ国境にも近い国際都市マーストリヒトにキャンパスを構えています。FIBCには日本語専攻が設置されており、日本語の授業も開講されています。交換留学生として滋賀大学に留学する予定や留学経験のあるオランダ人学生がいます。



マーストリヒト市街には街の語源となったマース川が流れており、市街地中心部はローマ時代の遺構や教会等の歴史的な街並みにショッピングセンターや飲食店といった近代的な施設が組み込まれるように建てられ、新旧の調和が図られています。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

ゾイド大学は4学期制を採用しており、ブロック1(8月後半～11月)、ブロック2(12月～翌年2月初め)、ブロック3(2月上旬～4月)、ブロック4(4月～6月)に区分されています。滋賀大学からの交換留学生は、ブロック1と2、ブロック3と4をそれぞれ一つの学期として留学します。

交換留学生は、国際ビジネスコミュニケーション学部FIBCの英語による正規授業科目のいくつかパッケージ化された科目群プログラムから、いずれかのプログラムを選択します。科目群プログラムには、「国際ビジネス(International Business)」、「ヨーロッパ研究(European Studies)」、「東洋言語コミュニケーション(Oriental Languages & Communication: OTC)(ブロック1と2のみ開講)」があり、オランダ人学生、EU圏内等の留学生、交換留学生が在籍しています。

OTCは、初めて英語で講義を聴講する学生向けのプログラムで「英語」、「異文化コミュニケーション」、「オランダ社会」等の科目が設置されています。

受講するための英語力は、「国際ビジネス」と「ヨーロッパ研究」でIELTS6.0(TOEFL-iBT 80点)以上、「東洋言語コミュニケーション」ではIELTS5.0～5.5(TOEFL-iBT 61点)以上が必要とされています。滋賀大生は、秋からの最初の学期(ブロック1と2)で「東洋言語コミュニケーション」を受講して英語の力をつけた上で、次の学期から「国際ビジネス」あるいは「ヨーロッパ研究」を受講するという留学形態がよいでしょう。

② 授業

実践を重視した応用科学大学であるため、授業では先生の話聞くだけでなく、学生たちがグループに分かれて授業の内容に関するディスカッション、課題作成、プレゼンテーションを行うことが多いです。教科書を読む等の予習や復習をすることは必須で、どの科目でもほぼ毎週課題の提出が求められます。

FIBCは4学期制ですので、授業の進行ペースも速く、各学期の期末試験も広範囲に渡ります。

・留学生の時間割例①（東洋言語コミュニケーション）

月	火	水	木	金
	8:45-10:15	8:45-11:15		
	English (Writing)	Dutch for Foreigner		
	10:30-11:15			10:30-11:15
	Introduction to Communication			Communication Theory Practice
13:00-14:45		14:15-15:30	13:00-14:45	
Organization Behavior		Communication Theory Practice	Introduction to Communication	
			15:45-17:10	16:00-17:30
			English	Dutch Survival Kit

・留学生の時間割例②（ヨーロッパ研究）

月	火	水	木	金
8:45-10:15	8:45-10:15			
Minority and Dominant Culture	American Studies			
				12:15-13:45
				Dutch Life and Institution
15:45-16:30	14:45-16:30			14:00-15:30
Europe Union from Different Angles	Europe Union from Different Angles			Russian
16:30-17:15		16:30-18:00		
Comparative Constitutional Law		International Relationship		

・留学生の時間割例③（国際ビジネス）

月	火	水	木	金
	8:45-10:15	8:45-10:15	8:45-10:15	
	Practical Skill and Logistics	Dutch	English	
13:00-15:30	10:30-12:00	13:00-14:45		12:30-13:45
Logistics	Finance	Practical Skill and Law		Commercial Law
				15:45-17:15
				Elective English Grammer

③ 宿舎

学生寮に入居することができます。立地はキャンパス近くやバスで 30 分ほどの所にもあります。寮では、キッチン、トイレ、冷蔵庫、バスルームは他の入居者と共用です。居室は個室で、ベッド、机、椅子、机用の照明、クローゼットはハンガーをかけられるコート等を収納できるものと棚がいくつかついたものの 2 種類があります。寝具、枕、シーツ等は支給されます。台所用品や寝具等の生活を始めるために必要な最低限の物は部屋に備わっています。

寮費（光熱費、WiFi 接続料込み）は居室の広さ（9～21 m²）によって、およそ 45,000～65,000 円と異なります。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ キャンパス内のインターナショナルオフィスは、留学生が困ったことやわからないことがある時に相談に乗ってくれます。
- ・ ゾイド大学のオランダ人学生が付いてくれるチューター制度があります。
- ・ 日本語専攻の授業にボランティア参加して会話パートナーを務めたり、日本語と英語を交替で使ってトピックについて会話をするイベント等、日本語専攻のオランダ人学生との交流の機会が頻繁にあります。
- ・ 大学はそれほど大きくありませんが、元修道院の建物なのでとても綺麗です。図書館には日本の大学と同じで静かに集中して勉強できる場所があります。カフェテリアは開放スペースになっており、飲食だけではなく、授業前後の時間に勉強をしたり、友人と過ごすことができます。
- ・ キャンパスからほど近い場所にスーパーマーケットがあります。街に出るとアジアンマーケットがあり、米や醤油も買えます。また、20 分ぐらい歩くと街の中心部に行くことができ、外食、ショッピングを楽しむこともできます。大学周辺はとても落ち着いた環境で、治安も良いです。
- ・ 野菜や果物等の食材は基本的に日本よりも安いので、自炊すれば節約して生活することが可能です。
- ・ 家賃を含む生活費はひと月 7～10 万円ぐらいですが、服や旅行、教科書代等を入れるともっとかかります。教科書は日本と違って、1 冊 1 万円程度のもものもあります。
- ・ マーストリヒトでは、10 月頃から朝夕は真冬並みに寒くなります。

○フランス共和国 西部カトリック大学 (Université Catholique de l'Ouest)

(1) 大学の特徴

1373 年創立の中世大学を前身とする私立の総合大学です。1875 年に現在の形態となりました。西部カトリック大学には、神学、教育学、文学、理学、商経学、現代語学等の学部があり、フランス語教育センターCIDEF は質の高いフランス語教育を提供する学内機関として定評があります。



フランス西部のアンジェ市中心部にキャンパスを構え、学生数は約 12,000 人（そのうち留学生は 1,500 人）に上ります。

アンジェ市は、首都パリから列車で 1 時間半ほどの所に位置しており、南西部にロワール川が流れ、歴史地区に古城と大聖堂がある観光地です。キャンパスは、駅、ショッピングエリア、レストラン、公園等にも近く、生活至便な場所にあります。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

学期は、第 1 学期が 9 月上旬～12 月 20 日頃（途中 1 週間の秋休みを含む）、第 2 学期が 1 月中旬～5 月 10 日頃（途中 1 週間の冬休みを含む）となっています。

交換留学は、フランス語による正規授業科目の受講、最初の学期でフランス語コース+次学期にフランス語による正規授業科目の受講、英語による正規授業科目の受講（ビジネス学科のみ）というように、本人の希望と語学力によって異なるプログラムとなります。

フランス語による学部の正規授業科目の受講には、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages ヨーロッパ言語共通参照枠) で B2 レベル (仏検準 1 級と同等レベル) のフランス語力が必要となります。

CEFR で B1 レベル (仏検 2 級と同等レベル) のフランス語力の場合、最初の学期 (あるいは 9 月の夏季集中フランス語コース+最初の学期) は CIDEF でフランス語コースを受講し、そこで B2 レベルに到達すれば、次の学期で学部での正規授業科目を履修するという留学も可能です。CIDEF の授業料 (1 か月間夏季集中+1 学期間で約 58 万円、1 学期間 40 万円) は自費となります。

以上のいずれにおいても、必要なフランス語力を証明する書類を学内選考応募時に提出してください。

ビジネス学科の英語による正規授業科目の受講を希望する場合、学内選考応募の時点で TOEFL-iBT 72 点以上の英語力があることが必要です。

② 授業

授業ではどれも学生数が 20～30 人ぐらいで、滋賀大学で例えると語学の授業のような雰囲気です。宿題は課されませんが、どの授業も復習をするのが大変なようです。

定期試験では、教科書、授業中に配布されたプリントや説明された内容に関する問題を論述や択一式で回答していくものや、経済学系の授業では計算問題も出題されます。

留学生用のフランス語の授業を受けることができます。フランス語によるディベートや、フランス式の伝統的なレポートの書き方等を主に学ぶ内容で毎週、宿題が出されます。定期試験では、授業中に説明された内容に関する論述や授業で勉強した方法に基づき、テーマに関してエッセイを書く問題に取り組みます。

・留学生の時間割例（フランス語による科目受講の場合）①

月	火	水	木	金
		8:30-10:30		
		Économie européenne		
13:30-17:00		10:45-12:30		
Comptabilité générale		Microéconomie avancée		
	18:45-19:15			
	Cours d'expression française			

・留学生の時間割例（フランス語による科目受講の場合）②

月	火	水	木	金
	8:00-10:00			
	美学II (Esthétique II)			
11:30-13:30		10:15-12:15		10:15-12:15
現代アート of 歴史 (Histoire de l'art contemporain)		フランス語II (Langue française)		美学I (Esthétique I)
16:15-18:15	18:15-20:15			16:15-18:15
18世紀から20世紀まで の文学史 (Histoire littéraire du XVIIème au	フランスの言語と文化 (Langue et culture françaises)			演劇の詩学 (Poétique du théâtre)

③ 宿舎

留学中の宿舎は、学生寮、学生アパート、ホームステイから選べます。

ホームステイの場合、食事込みや食事別のように多様な形態があります。ホームステイの費用は、例えば、毎朝食と週 3 回の夕食付きのプランで 1 学期間 30 万円です。

学生アパートは大学から徒歩圏内の物件を紹介してもらえます。例えば、4階建ての全9部屋の留学生用の物件は、お手洗いとお風呂は共用、部屋の設備は全体的に古めですが、広さは6.5畳ほどで食器等は一通り揃っています。WiFiにも接続可能です。家賃は月額45,000円です。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ オリエンテーションは4日に渡って行われ、アンジェの街の紹介や大学側が行っているイベントの紹介に始まり、社会保障や住宅助成金の説明などがあります。交換留学生同士の軽い食事会も催されます。
- ・ 交換留学生用のフランス語の授業のレベル分けをするため、DELFで受けるような作文のテストがあり、4つのクラスに分けられます。学生証はこのテストを受ける直前に貰えます。
- ・ 希望する学部の担当者と交換留学生のrendez-vousの機会が設けられており、授業内容に関する簡単な質問や、どの授業を全体的に履修すれば良いかといったアドバイスが貰えます。
- ・ 西部カトリック大学では、3か月以上滞在する留学生に保険（傷害保険やホームステイ先での物損事故対応等）に加入することを義務付けています。

○オーストラリア連邦 ディーキン大学 (Deakin University)

(1) 大学の特徴

1974年、ヴィクトリア州の都市部以外の地域の教育を中心に担う大学として創設されました。新しい世代の大学として、従来の教育研究特化型の大学教育に留まらない取り組みを進めています。産業界との連携、遠隔教育やパートタイム受講等の多様な学習の提供に力を入れています。

ヴィクトリア州内のメルボルン・バーウッド、ジーロングなどの4か所にキャンパスを持っています。留学生、移民家庭出身の学生、社会人学生も多く在籍しています。

ヴィクトリア州の中心都市であるメルボルンは、安定性、医療、文化と環境、教育、都市基盤の主要5項目を基に都市を採点した世界で最も住みやすい街ランキングで第1位となったこともある街です。別名「ガーデンシティ」と呼ばれ、緑豊かな公園、歴史的建造物、近代建築が見事に調和した美しい都市です。住民の3割が外国生まれですので、食べ物、イベント、生活習慣のあらゆる場面で多民族・多文化を体感することができます。



(2) 交換留学プログラム

① 概要

ディーキン大学は、3学期制を採用しています。1学期が3月～6月中旬、2学期が7月中旬～10月中旬、3学期が11月～翌年2月中旬です。1学期あたり4科目まで授業を取ることが可能です。なお、3学期目は開講される科目数は少ないため、この時期の留学は勧めません。

一部の学部では希望の科目を履修するために、学部の事前審査を受けなければならない場合があります。ディーキン大学は事前審査が課されない交換留学生向けの科目（例：オーストラリア学、児童文学、メディア学入門、犯罪学入門、グローバル経済学、ビジネスと環境）を設置しており、交換留学生はこれらの科目の履修することを推奨しています。

ディーキン大学の各学部で開講される正規授業科目を履修するためには、各学部等が設定している基準以上の英語力が必要となります。多くの学部ではIELTS6.0（各領域6.0以上）あるいはTOEFL65点（Writing21点）以上ですが、教育学系や法学系の学科ではIELTS7.0（各領域6.5以上）あるいはTOEFL94点（Writing24点）以上と基準が高いため、注意してください。なお、これらの英語力の基準は学内選考の応募の時点で満たしていることが求められます。

② 授業

・留学生の時間割例①

月	火	水	木	金
	8:00-9:00			
	Consumerism, Gender and Sustainability (Class)			
	11:00-12:00	10:00-11:00		
	Consumerism, Gender and Sustainability (Seminar)	Love, Sex and Death (Seminar)		
			14:00-16:00	
			Sex and Gender. Ideas That Changed the World (Seminar)	
16:00-17:00		16:00-17:00		
Love, Sex and Death (Class)		Sex and Gender. Ideas That Changed the World (Class)		

・留学生の時間割例②

月	火	水	木	金
			8:00-9:00	
			Marketing Communication (Lecture)	
12:00-13:00	12:00-12:50		12:00-12:50	
Media Culture and Technological Transformations (Lecture)	Communication in Everyday Life (Tutorial)		Marketing Communication (Tutorial)	
	15:00-16:00			
	Media Culture and Technological Transformations (Lecture)			

科目は、ユニット (Unit) と呼ばれます。一つの科目の授業は、講義 (Lecture, Class) と演習 (Tutorial, Seminar) で構成されています。講義では担当教員が授業内容を説明し、演習では少人数でトピックについてディスカッション等を行います。授業には課題書を読んでおく等の予習と復習が必要であり、毎週のように課題が出されることがほとんどです。

課題は様々な方法で課され、個人やグループでプレゼンテーションをした後に要約を提出する、字数が 1,000~1,500 語や 2,000 語程度のエッセイ等があります。最終試験は、教科書や授業で使った資料や文献を題材とするエッセイライティング、ショートエッセイライティング (250 語程度)、キーワード説明 (200~300 語程度で説明)、選択式問題といった形式が多いです。試験時間は、50 分間、2 時間のように科目で異なります。

なお、過去の滋賀大からの交換留学生は、メルボルン・バーウッドかジーロングのいずれかのキャンパスを選択して授業を受けました

③ 宿舎

交換留学生は、キャンパス内にある学生寮に入居できます。大学からホームステイやアパートの紹介を受けることも可能です。ジーロングのキャンパスではメルボルン・バーウッドに比べて宿舎や生活にかかる費用を抑えられますが、市街地から離れているため多少の不便も感じるようです。

・学生寮 (メルボルン・バーウッドキャンパス)

学生寮はキャンパス内に数か所あり、シングル (寮費は週 30,000 円)、1 ユニットを 5~6 人で共有するタイプ (週 26,000 円)、10 人で共有するタイプ (週 23,000 円) の 3 タイプがあります。

5~6 人で共有するタイプの寮には、約 6 畳の広さの各自の居室があり、机、いす、クローゼット、ベッド、棚、コンセント等が備え付けてあります。部屋はカードキーで開け閉めします。共用スペースには、キッチン、トイレ、シャワー、リビングにはソファとテレビがあります。調理器具等の個人で使う生活用品や寝具は、自分で買い揃える必要があります。一階には洗濯機と乾燥機のスペースもあり、各 10 台ずつ、寮の全住人で共用します。週に一度、部屋の清掃サービスが入ります。Rec Room という部屋では映画やビリヤードもできます。

・学生寮 (ジーロング・ウォーランポンズキャンパス)

学生寮の寄宿料は、インターネット接続料、洗濯機、設備使用料込みで週 18,000~20,000 円です。

・ホームステイ

費用は、個室使用の 3 食付きで週およそ 25,000 円 (光熱費、WiFi 接続料含む) です。受入れ家庭は、キャンパスから公共交通機関を使って 1 時間以内の家です。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ 留学前に、オーストラリアに留学する学生全員に加入が義務付けられている学生健康保険 (Overseas Student Health Cover: OSHC) に入っておく必要があります。OSHC 保険料は、1 学期間で 250 豪ドルです。

- 学期開始の1～2週間前から、全新入生向け、留学生向け、寮生向けのように対象の異なる様々なオリエンテーションが行われます。また、この時期は、学生同士の交流を目的に、キャンパス内や寮内で様々なイベントが催されます。
- 学期開始前の3日間は留学生向けの旅行が企画されており、グレートオーシャンロードでサーフィン、ハイキング、ヨガ等の活動を通して様々な国出身の留学生と交流することができます。参加費は自己負担する必要があります。
- ディーキン大学には、図書館や学習支援センターの留学生をサポートする施設が整っています。図書館は、平日は8～24時の間、開館しており、週末も利用できます。会話ができる場所が設けられており、友達と一緒に勉強したり、グループ課題を進めたりすることができます。学習支援センターは、課題や英語に関する質問、学校で困っていることをアドバイザーに相談をしたり、学業に関するサポートが受けられます。キャンパス内には24時間利用可能なパソコン室もあり、図書館の混雑時や夜遅くまで課題をしたい時に便利です。
- 大学内に医務センターがあり、予約して数日以内には医者に診てもらうことができます。診察料は強制加入の保険でカバーされているため費用負担はなく、薬局で医薬品を購入する程度で済みます。
- 学生寮に入った場合、自炊にかかる食材費は週に3,000～3,500円が目安です。メルボルンでは外食の値段が高く、最低でも1食1,200円程度となります。ホームステイやキャンパス外のアパートに住む人は、通学費用が必要です。バス、電車、路面電車に共通で使える通学定期券は月額7,000円です。
- 学生生活に関わる様々な事項を電話番号を使って登録することが多いため、現地に到着次第すぐに現地の電話番号を手に入れるようにしてください。現地の電話番号を使えるSIMカードがディーキン大学から無料で支給されますので、日本から持っていく端末をSIMフリーにして行くか、現地で端末を購入して使うとよいでしょう。

○オーストラリア連邦 シドニー工科大学 (University of Technology Sydney)

(1) 大学の特徴

1893年創立のシドニー技術学校（Sydney Technical College）を前身に、1988年にシドニー工科大学として発足しました。学部と大学院を合わせた学生数約4万人の大規模な公立大学です。在学生の4分の1が外国人留学生という国際色豊かな大学です。

校名は工科大学ですが、理系、文系の多領域の専門が学べる総合大学です。学内で最大の学生数を誇るのがビジネス学部であるように、人文社会科学系も含む幅広い領域で学生を受け入れています。日本語を副専攻で学ぶ学生もいます。



南北に長く広がるシドニーの都心の南部にキャンパスを構えています。セントラル駅とチャイナタウンにほど近い交通至便な場所にあり、近代的デザインの大学施設が都心のビル群に組み込まれるように建てられています。

(2) 交換留学プログラム

① 概要

シドニー工科大学は3学期制を採用しており、秋学期は3月（2月下旬にオリエンテーション）～7月上旬（教育学部のみ2月～7月上旬）、春学期が7月下旬～11月中旬（教育学部のみ7月下旬～12月）、夏学期が11月下旬～2月となっています。交換留学生は秋学期と春学期に開講されている授業の履修が認められており、一人最長2学期間の留学が可能です。

交換留学生が学部の科目を受講するためには、各学部が設定する英語力基準を満たす必要があります。ビジネス、コミュニケーション学、情報科学、教育学、国際学等のほとんどの学部でIELTS6.5（Writing6.0）あるいはTOEFL-iBT79～93点（Writing21点）以上の英語力が要求されます。教育学部のうち教員養成コースでは、IELTS7.0（Writing7.0）あるいはTOEFL-iBT94～101点（Writing23点）以上の英語力が求められます。

学部の英語力基準に達していない人でIELTS5.0（Writing5.0）あるいはTOEFL-iBT60点（Writing17点）以上の英語力があれば、「オーストラリア言語文化研究（Australian Language and Culture Studies）」という語学学習に一般教養的な内容を含んだ交換留学生向けのコースの受講が可能です。1学期目にこのコースを受講し、学部の要求する英語力基準（コースとは別途にIELTS等の英語能力テストの受験が必要）に達したら2学期目から学部の正規授業科目を履修するというパターンでの留学も可能です。

② 授業

オーストラリア言語文化研究コースの科目は、英語力の向上を第一の目的として開講されています。1クラスの人数は20～30人です。授業ではオーストラリアの文化や社会事情を題材にした教材を使っての聞き取り、グループディスカッションなどが行われます。グループディスカッション中の英語の会話や筆記したメモなどについても講師からの指導や添削を受けて、英語力の向上を目指

します。また、エッセイやプレゼンテーション等の課題の提出が頻繁に求められます。なお、このコースの受講者のほとんどが、日本からの交換留学生です。

・ 留学生の時間割例①（オーストラリア言語文化研究の授業）

月	火	水	木	金
			9:00-12:00	
			Australian Media	
15:00-18:00		13:30-16:30		
Australians at Work		Australian Languages Studies		

学部正規科目の授業は、1科目が Lecture と Tutorial の 2 種類のクラスで構成されており、異なる時間帯に開講されます。Lecture は日本の大学と同じように授業に出席し、講師による授業内容の解説を聴講するものです。次に Tutorial の授業に出席し、Lecture の授業でわからなかったことを質問したり、Lecture の内容をもとにしたグループディスカッションやグループプロジェクトに参加したりします。中間試験やクイズも Tutorial クラスで行われることが多いです。

毎週 20～70 ページの本やオンライン文献を読むという予習をした上で授業に参加する必要があります。留学生は予習に相当の時間をかけているようです。

・ 留学生の時間割例②（学部正規科目の授業）

月	火	水	木	金
10:00-11:30				
Managing Tourism Sectors (Lecture)				
	12:00-13:00	11:00-13:00		
	Contemporary Global Economy (Lecture)	Product Innovation Marketing (Lecture)		
14:30-16:00	15:00-17:00	15:00-16:00	14:30-15:30	
Managing Tourism Sectors (Tutorial)	Contemporary Global Economy (Tutorial)	Product Innovation Marketing (Tutorial)	Digital Marketing and Social Media (Tutorial)	
			18:00-20:00	
			Digital Marketing and Social Media (Lecture)	

③ 宿舎

複数の学生寮がキャンパス周辺にあり、交換留学生も入居することができます。キャンパス外の民間アパートは供給が少ないため、学生寮への入居を勧めます。入寮者の比率は外国人留学生 7 割に対して地元学生 3 割で、国際色豊かな環境です。学生寮の寄宿料は 1 週間で約 250～400 豪ドルです。寮ごとに寄宿料の額、部屋の広さ、間取り、入居者数、キャンパスからの距離等が異なります。

大学の紹介するホームステイに滞在することも可能です。ホームステイ先では個室が提供され、勉強机、椅子、ベッド等の必要なものは揃っています。朝夕 2 食がついて 2 週間で 5 万円です。キャンパスに通学するためのバス代等の交通費も必要です。

④ 現地の生活・課外活動

- ・ シドニーは物価が高いため、留学中の生活費は高額となります。家賃、食費、日用品、学用品等の費用を合計すると、月額 12~18 万円は必要です。
- ・ 学期開始前の 2 週間、様々なオリエンテーションが行われます。留学生向けに保険や学生生活について紹介したもの、キャンパスツアー、ほとんどのオリエンテーションは自由参加ですが、参加が義務付けられているものもあります。
- ・ 留学生センターに交換留学の担当者がおり、留学の制度についての質問・相談ができます。生活についてのカウンセリングセンター、学習支援センター、診療所などのサービスを学生に無料で提供しています。学内のクラブ活動、ビーチや山に行く課外活動が学生向けに企画・運営されています。
- ・ HELPS と呼ばれる留学生支援施設があります。レポートを書き方などの語学の支援やオーストラリア人学生サポーターが運営する会話クラスなどの支援が受けられます。
- ・ キャンパス内に 24 時間開放されている Study Zone があり、学生は友人同士で勉強したり、休憩したりと様々な用途で利用することができます。電子レンジやウォーターサーバーなどもあります。警備員が 2~3 時間ごとに巡回しており、セキュリティ面でも安心です。

2 その他の協定大学の交換留学プログラム

○中華人民共和国 湘潭大学（Xiangtang University）

(1) 大学の特徴

中国の初代国家主席を務めた毛沢東の故郷である湖南省湘潭市に、1958年に設立された総合大学です。哲学・歴史文化学、商学、法学、文学・新聞学、外国語学、機械工学、芸術学、国際関係学等の学部と研究機関で、学士、修士、博士、ポストドクター等のプログラムが提供されています。

湘潭大学は、中国の大学の中でも早い時期から外国人留学生を受け入れてきた実績を持つ大学の一つです。



(2) 交換留学プログラム

中国語による正規授業科目を受講することができます。授業を理解することができる中国語力が求められます。

○中華人民共和国 湖南師範大学（Hunan Normal University）

(1) 大学の特徴

中国の湖南省と滋賀県の友好提携が2018年に35周年を迎えることから、両地域間の青少年等の教育交流の強化を目指して本学との交流協定が締結された大学です。

1938年設立の国立師範学校を前身とし、現在は五つのキャンパスに哲学、経済学、教育学、文学、史学、理学、工学、農学、医学、芸術学等の分野の24学部3教学部81学科、附属小学・中学・高校を有します。在校生は約20,000名、教職員は約1,700名を数えます。中国語教育、日本語教育は国内トップレベルの定評があります。

国際交流では、33か国地域の大学や行政機関と協力・交流の関係があり、滋賀県との交流では毎年、近江ふるさと会（彦根市）へ学生の短期インターンシップの派遣を行っています。

(2) 交換留学プログラム

中国語による正規授業科目を受講することができます。授業を理解することができる中国語力が求められます。



○台湾 国立高雄科技大学 (National Kaohsiung University of Science and Technology)

(1) 大学の特徴

2009年から本学と交流を進めてきた国立高雄海洋科技大学が近隣の科学技術系大学2校と統合し、2018年2月から台湾最大規模の科学技術大学としてスタートしました。

台湾第二の都市である高雄に、統合前の各大学のキャンパスを引き継いだ複数のキャンパスを擁します。台湾では唯一の海の専門家養成を目的とする教育機関として発展してきた旧高雄海洋科技大学、工学系の教育研究で評価の高い旧高雄応用科技大学、台湾の科学技術系大学で唯一の外国語学部を持ち、英語、日本語、ドイツ語等の語学専門教育に力を注いできた旧高雄第一科技大学の三つを母体に、それぞれの歴史と特色をもとに更なる発展が目指されています。

教職員には日本をはじめ海外留学経験者が多く、国際交流を意識した取り組みが積極的に行われています。



(2) 交換留学プログラム

(旧高雄海洋科技大学時の情報)

学内で開講されている中国語による正規授業科目を受講することができます。授業を理解することができる中国語力が、交換留学の応募要件となっています。

交換留学生は、学生寮に入ることができます。4人部屋です。1学期間にかかる費用は、寄宿料(約23,000円)の他、ネットワーク使用料、エアコン使用料、学生生活保険、外国人留学保険への加入料等です。

○タイ王国 泰日工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology)

(1) 大学の特徴

泰日工業大学は、タイと日本の友好的連携とタイ産業界の人材育成を目的として設立された泰日経済技術協会を母体としています。特色ある“タイにおける日本型ものづくり実践教育”を中核とした日本企業との連携による画期的な大学を目指して、タイの首都バンコクに設立されました。

工学、情報学、経営学の各学部と大学院があり、経営管理学科日本語コースの学生は日本語を専攻しています。



(2) 交換留学プログラム

交換留学生を対象とする学期単位の授業は開講されていません。

交換留学生は、泰日工業大学が海外交流協定校の学生向けに開講している10日間～2週間程度の短期集中プログラムに参加します。タイ語の知識は必須ではなく、日本語、英語を使用してプログラムが実施されます。現地では、大学が手配するキャンパス近くのアパートに滞在します。

○モンゴル国 人文大学 (University of the Humanities)

(1) 大学の特徴

モンゴルの首都ウランバートルに、ロシア研究所として1979年に設立され、1990年に外国語研究所となり、1999年に人文大学となりました。現在は、社会・行動科学、ビジネス、外国研究の3学部で構成される人文系総合大学です。日本語を学ぶ学生も在籍しています。

中国、韓国、日本、台湾、タイ、オーストラリア、アメリカ等のアジア太平洋諸国、イギリス、ロシア、デンマーク、ドイツ等のヨーロッパ諸国の高等教育機関との多国間協力体制作りに積極的に取り組んでいます。



(2) 交換留学プログラム

正規授業科目を受講することができます。

授業はモンゴル語あるいは一部が英語で実施されているため、授業を理解することのできる語学力が必須です。

○ベトナム社会主義共和国 ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)

(1) 大学の特徴

ベトナムの北部に位置する首都ハノイに1951年に設立された国立大学です。学部・大学院レベルの教員養成専門系の高等教育機関としてはベトナムで最古の大学です。

創立から60年以上を経た現在では、初等教育学、特別支援教育学、技術教育等の教育学系の学問領域に加えて、数学、農生物学、言語学、地理学、フランス語学、ベトナム地域研究等の多様な領域に渡る学際型の大学として発展しています。

ヨーロッパやアジアの大学との研究・教育の協力体制構築の実績と経験を持っています。



(2) 交換留学プログラム

滋賀大学からの交換留学生は、哲学部とベトナム研究部の正規授業科目、国際教育センターのベトナム語学コースを受講することができます。

正規授業科目の受講には、授業を理解できるベトナム語力が必要です。

○マレーシア ノッティンガム大学マレーシア校 (The University of Nottingham Malaysia Campus)

(1) 大学の特徴

ノッティンガム大学マレーシア校 (UNMC) は、英国の伝統ある名門校ノッティンガム大学が英国の大学では初めて英国以外に設けたキャンパスであり、2000年に最初の学生を受け入れました。ビジネス、経済学、教育、法律、言語、文化、政治学、歴史、国際関係、英語教育、化学、環境工学、工学、生物学、コンピュータ科学、地理学、心理学と幅広い専門分野を擁し、全ての授業が英語で行われています。



英国本校は、英国中部の都市ノッティンガムに1881年に設立された伝統校です。Timesによる世界大学ランキングでは147位(2017年)に位置し、優良な大学として高い評価を受けています。

マレーシア校は、マレーシアの首都クアラルンプール中心部から40kmほど南東に位置する場所にキャンパスがあり、英国本校と同じ教育・評価システムが採用されています。在籍する学部生の半数以上が留学生です。

(2) 交換留学プログラム

UNMCへの交換留学申請手続きを行う時点の各自の英語力によって、受講できるプログラムと期間が異なります。滋賀大生は以下の2種類のプログラムいずれかで留学します。

(1) IELTS 6.0 (各領域は5.5以上) あるいは TOEFL-iBT 79点 (Writing と Listening 17点、Reading 18点、Speaking 20点) 以上の学生：ファウンデーション・プログラム (Foundation Programme) で2~3学期間の留学。

(2) IELTS 6.5 (各領域は6.0以上) あるいは TOEFL-iBT 87点 (Speaking 20点、他の3セクションは19点) 以上の学生：学部の正規授業科目の受講。

ファウンデーション・プログラムは、学部授業を受講するために必要な英語力やスキルを身につけることを目的とする科目や教養科目で構成されるプログラムです。

学期は一般の学部では1学期が9月下旬~1月下旬、2学期が2月上旬~5月中旬、夏学期が5月中旬~9月上旬ですが、ファウンデーション・プログラムの場合は、1学期(9月~12月)、2学期(1月~4月)、3学期(5月~7月)です。

留学中はキャンパス内に設置されている寮に入ることができます。寄宿料は食事なしで月額1~2万円です。

IV 交換留学体験記

○留学先大学（国・地域）／名前（所属学部&派遣当時の学年）／派遣期間

○ミシガン大学アナーバー校（アメリカ合衆国）／猪股宗一郎（経済学部 3 回生）／
2017 年 8 月～2018 年 4 月

私は、2017 年 8 月から翌年 4 月まで、ミシガン大学アナーバー校に留学しました。ミシガン大学には、感覚マーケティングという分野で第一人者の先生がおられ、その先生の下で学びたかったため、ミシガン大学を希望しました。

感覚マーケティングの講義は、1 回あたり 3 時間で、事前に 2 冊の教科書を読んで予習し、隔週でグループ課題としてレポートとプレゼンが課されました。グループの話し合いは週に 3 回で、1 回あたり 5 時間かかることもありました。

また、Project Outreach という音楽心理学の講義では、Glacier Hills という老人福祉施設と、Mott Children's Hospital という小児病院でボランティアを行い、音楽心理学を実践的に学びながら、ボランティアで社会経験を積むことができました。

さらに、ESL (English as a Second Language) の講義では、第二言語としての英語の教え方を学びました。1 クラス 10 人以下のゼミ形式で、先生がとてもフレンドリーだったため、和気あいあいとした雰囲気が一番好きなクラスでした。イタリアに滞在経験のある先生に加え、受講している学生も、マレーシアとオーストラリアで育った韓国人、グアテマラからの移民、フランスに留学経験のあるアメリカ人、日本に留学経験のあるアメリカ人など国際的で、クラスであることを忘れさせてくれるほど楽しむことができました。

この講義で学んだ言語の教え方を実践するために、授業外で日本語学習者に日本語を教えました。私の場合は、台湾人、韓国人、アメリカ人に教えていましたが、日本語を教えるだけでなく、彼らの国のこともたくさん知ることができました。

住んでいた Northwood III というアパートでは、物理学専攻・コンピューターサイエンス副専攻でミシガン出身のアメリカ人学生と部屋をシェアしました。彼は、アナーバーのおすすめスポットを教えてくれたり、手料理を振る舞ってくれたりしました。私の専攻とは全く異なる分野を勉強している彼と話し、時には日本やアメリカが抱える問題を議論することで、自分とは異なる考え方を学びました。彼のおかげで楽しいルームシェア生活を送ることができたため、彼がルームメイトで本当に幸運だったと思います。

また、課外活動として、3 つの学生団体に所属していました。まず、JSA (Japan Student Association) という日本に関心がある人が集まる団体では、折り紙やソーラン節など日本文化を発信するイベントを開きました。

次に、フィットネスクラブでは、平日は毎日午前 7 時からジムで運動しました。クラブのメンバーは無料で利用できるメンター制度を使って、中国人の友人にフィットネスを教えてもらっていました。その他にも、食事会や映画鑑賞会などイベント盛り沢山の、留学生生活を充実させてくれました。ミシガン大学の学生は学生証を見せれば、学内のジムは全て無料で利用でき、私が通っていたジム（CCRB）は、平日は午前 5 時 30 分から午後 10 時まで開いているため、とても便利でした。

そして、全米自殺防止財団のミシガン大学支部では、**Out of the Darkness** というキャンパス・ウォークを主催しました。ウォークは募金集めだけでなく、自殺防止やメンタルヘルスの意識の向上、及びその偏見の根絶が目的で、当日は参加者全員でミシガン大学のキャンパスを歩き、自殺防止とメンタルヘルスの意識を高めました。結果的に、1,000 人以上の参加登録者から、100,000 ドル以上の寄付金を集めることができました。これは全米 200 のキャンパス・ウォークの中で最高額であり、キャンパス・ウォーク史上初です。寄付金の半分は全米自殺防止財団に送られ、残り半分はミシガン大学の学生のメンタルヘルスのケアに使われます。自殺防止団体でウォークを成功させたことは、留学生活で一番の思い出になりました。ウォークを通じて、アメリカでは寄付の文化が根付いていることや、アメリカより日本の方がメンタルヘルスに対する偏見が強く、助けを求めづらい雰囲気があるため、世界的にみて日本の自殺率が高い理由が垣間見えたような気がしました。

もし留学を迷っているのであれば、留学しない理由を探すより、なぜ留学したいのかを突き詰めて考えて欲しいと思います。私は留学前からミシガン大学で履修するクラスは全て決めており、老人福祉施設と小児病院でボランティアをすることや日本語を教えること、JSA（Japan Student Association）やフィットネスクラブに入ることも決めていました。

一方で、新しい自分を見つけることもまた留学の醍醐味であり、私にとってそれは自殺に対する問題意識の高さでした。偶然ウォークのチラシを見かけたときに、すぐにウォークの説明会に参加し、自殺防止団体に入ることを決めましたが、あの時思い切って説明会に参加して本当に良かったと思います。

留学実現にあたり、経済面の支援ではトビタテ！留学 JAPAN などの奨学金制度、語学面ではフィリピンなどの語学留学、就職活動ではボストンキャリアフォーラムなど、留学をサポートするシステムはたくさんあるため、留学を簡単に諦めないで欲しいと思います。

最後に、留学を支援していただいた大学関係者の方々、友人、家族に感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。



○啓明大学（韓国）／永田 粋（教育学部4回生）／2017年9月～2018年6月



私は2017年9月から2018年6月までの二学期間（約10か月）を韓国の啓明大学で交換留学生として生活しました。私は自らの英語力を磨くために交換留学をしました。その目的のうえで韓国の啓明大学を選んだ理由は二点あり、一つ目は交換留学生の多様性です。啓明大学は世界各国から留学生を受け入れており、その多様な留学生達と共に過ごすことで様々な英語に触れられると考えたからです。二点目は、韓国の文化に興味を持っていたからです。日本と地理的に近く、歴史的にも関係の深い国で、テレビのニュース等で韓国の様子を聞くことはあっても、実際の様子を直に見ることはありませんでした。その中で、私の中にあるイメージが本当なのか、韓国人の学生が日本に対してどのようなことを考えているのか、実際に話して、聞いてみたいと思うことが、非常に多くあったからです。

履修した授業は、英語の教授法に関するもの、韓国語や韓国文化に関するもの、またプレゼンテーションや哲学に関するもの等、自らの専修に関わるものから留学するまでに触れたことのない分野の授業まで、様々な授業を履修しました。私が良いと感じた点は様々な分野の授業を英語母語話者の先生のもと、留学生や現地の大学生と一緒に全て英語で受けることができ、また韓国語で行われる授業も履修することができるという点です。また、履修計画を自ら自由に立て、好きな授業を受けられるという点も、授業以外のプログラムや課外活動に取り組みたがっていた私にとって非常に魅力的なものでした。一つの授業が一週間の内に二回あることで毎回の予復習と課題の量が非常に多いこと、どの授業にもほとんど英語での議論やプレゼンテーションが主としてあるので、私はそのような形式に慣れるのに非常に時間がかかってしまいました。しかし、慣れてより意欲的に授業に参加できるようになった二学期目は他の留学生や韓国人の学生たちと議論しながら、彼らの国の文化や歴史、考え方を知ることができる経験がさらに増えたので、非常に楽しいものでした。

寮生活についてお話しします。私は交換留学中、大学の敷地内にある寮で、韓国人の在學生と同じ部屋で生活していました。私が選んだ寮は、英語を学ぶ韓国人奨学生と日本語を学ぶ韓国人奨学生と留学生が住む寮で、寮内では英語と日本語のみが使われる寮でした。ピクニックや運動会等の寮生達が交流できるイベントや TOEFL 対策の授業も開講されており、私はそのような行事や授業にも参加し、授業内外で英語を学ぶ機会を得ていました。寮には門限があり、外泊する際は申請が必要であったり、と不便なことは幾つかありつつも、寮生活の中でできる友人と一緒に過ごす時間が長いのもあり、ですぐに仲良くなることができました。様々な国々からの留学生たちと一緒に寮で過ごすので、全員が異なる国籍の友人たちと輪になって話すのは新鮮で非常に面白いものでした。

課外活動についてお話しします。私は正式に履修している授業の他に”International Lounge”という、留学生や現地の学生たちが交流する施設で行われている韓国語の授業や英語の授業を受けていました。その施設で行われている”International Day”というイベントの日には日本人留学生や韓国人学生と協力して現地の中学生をその施設に招待し、日本の文化を紹介するプレゼンターをしました。

CCAP (Cross Cultural Awareness Program)というプログラムにも参加し、ここでは現地の小・中学校、高校に赴き、日本の文化を紹介する授業を行いました。その他には、体育大学のバドミントンのチームに入れてもらい、週一回で練習に参加していました。私は他の国の交換留学先大学の様子を詳しくは知りませんが、それでも啓明大学は留学生に対してのサポートが非常にしっかりしていると感じました。先ほど紹介した活動の他にも留学生に対し特別に案内される行事・活動(無料もしくは安価なもの)が豊富であり、韓国の文化の様々な側面に触れることができることも、その理由の一つです。

最後に、韓国の啓明大学だからできたこと、よかったことをここでは二点お話しします。

一つ目に、韓国大学生達と共に英語を学べたことです。私は留学するまで、韓国語を勉強したことがなかったので、韓国語を勉強し始めてからも、韓国大学生と話をするときは基本的には英語で話していました。私に関わる韓国大学生たちは英語に関わる学部の学生が多く、英語の能力を伸ばしたいという共通の目標がありました。彼らと一緒に過ごしていると、彼らの勤勉さや学ぶことに対する熱意に度々驚かされることがありました。日本にいるときには感じる事が無かった感覚であり、彼らに負けまいと英語にもっと打ち込もうと、向上心を強く保つことができました。また、韓国という地理的、歴史的にも関係の深い国だからこそ、実際に韓国大学生や教授の方々と話すことで、私自身が気付かないうちに持っていたステレオタイプや偏見のようなものに気づき、それが私の中で崩れていくという体験を数多く経験することができたと思っています。

二つ目に、世界各国から来ている留学生たちと共に過ごせたことです。時期により、留学生の数や国の多様性の度合いに多少の違いはあれど、韓国という国で数多くの国からの留学生と関わることは非常に貴重なことです。英語の話し方やアクセントも様々で、最後まで慣れないと感じるものもありましたが、ネイティブの英語ではない様々な英語を聞くことができました。授業では様々な国籍の学生たちが議論を交わすことが多々あるので、毎回お互いの文化の違いに驚くという、楽しい授業もありました。それは留学生に多様性を持つ啓明大学だからこそできる経験の一つだと思います。なので、留学生と一緒に学べる韓国文化や異文化に関する授業を一つ取ることを私は強くお勧めします。

韓国語を最後まで満足に話せはしませんでした。国際センターをはじめとする大学関係者の方々や家族、友人の支えのおかげで、私は韓国という国で自らの交換留学生生活を有意義に、十二分に楽しむことができたと思っております。

○東北財経大学（中華人民共和国）／田村 元宜（経済学部 3 回生）／2017 年 9 月～2018 年 7 月

私は、2017 年 9 月から 2018 年 7 月まで、中国遼寧省大連にある東北財経大学に交換留学生として派遣させていただきました。今回の留学生活はこれまで、そしてこれからの人生において非常に意義ある経験になりました。



東北財経大学は大連の市街地にあり、アジア諸国をはじめ世界各国から学生が集まっている大学です。近年は一带一路構想の国々やアフリカ諸国の留学生が多く留学していて、様々な国籍の学生がコンパクトなキャンパスのなかで生活しています。

・留学に至るまで

もともと日中両国関係の現状に問題意識を持っていたため、大学の第二外国語では中国語を選択し、勉強に励んでいました。そして中国語を勉強するうちに、もっと中国語を勉強して、将来は「日中友好の懸け橋」になりたいと思うようになりました。留学先を検討する中で、大連という街は、歴史的経緯から日本人をはじめ多くの

外国人が生活する、私が留学するのにふさわしい街だということが分かりました。そこで、東北財経大学に留学したいと思い、留学条件である「東北財経大学中国語短期研修」を経て、9月から10か月余りの留学生生活を開始しました。

・中国の現状

日本の報道でみられるような、抗日運動や空気汚染はありません。留学生生活を送るなかで、非常に困るということは全くありませんでした。しかし、中国はひとつの国家でありながら、広大な土地にさまざまな歴史的、文化的な背景を抱えて成立している国家です。日本人からすると、留学へのハードルが低い国だと思いかもかもしれませんが、人々の各々の考え方や常識、国家の仕組みなどは日本と全く異なる国です。留学する際は日本を一度忘れて中国のすべてを受け入れることが重要だと思います。それが、留学生生活を豊かにする鍵だと思います。

・周りの環境

東北財経大学には日本語学科の中国人学生のほかにも、独学で日本語を勉強していたり、日本文化に興味を持っていたりする学生がたくさんいます。また、近隣の大連理工大学や遼寧師範大学などにも日本語を勉強している学生が多く在籍しています。

大学内では、週1回中国人学生が中心となって開催している「日中交流会」というものや、大学外では、週2回近場の喫茶店で中国人の社会人との交流会が開かれています。そのような交流会に参加することで、普段授業で習った会話表現を実践できたり、新たな単語に出会えたり、自分にとって収穫となる経験が多くありました。

また、日本人留学生有志で結成された「大連留学生社团」という組織があり、在大連領事事務所や在大連日本企業のご協力のもと、日本文化の発信や日中学生の交流イベントの企画運営、企業向けの日本語教室など、留学生自身が主体となって中国人と深く接する活動を行ってきました。

このように自分から能動的に行動すれば、大学生だけでなく社会人と交流する機会も、大連にはたくさん存在します。

・東北財経大学の授業

中国語のみを学ぶ語言生であれば、必修の授業は基本的に午前中のみです。授業はすべて中国語で行われます。1クラスはだいたい20人ほどで、クラスメートの韓国・朝鮮、ロシア人が非常に優秀で予習復習をしっかりと授業を受けていました。日本人もそれに負けまいと頑張れる環境が

ありました。もし HSK5 級以上を持っているようであれば、中国人本科生のクラスに編入して授業を履修することも可能です。そのほかに午後には選択授業があります。例えば中国武術や書道、中国茶芸など中国文化を学ぶ授業が開講されます。中国文化を知ることは中国を知ることにつながるため、積極的に受講していました。また、これらの授業は外部の講師を招いて開かれる授業もあるので、そこから思いがけない人脈が広がるかもしれません。

・東北財経大学での生活

寮は一人部屋もしくは二人部屋になります。生活習慣などを考慮してルームメイトは日本人か韓国人を、大学側が充てることが多いのですが、自分でルームメイトを探したり、外部のアパートに泊まったりすることも可能です。アパートに泊まる場合は自分で手続をする必要があるため一定の中国語能力が必要になります。

食事は学生食堂を利用することが多く、日替わりの料理を提供するお店や特色ある料理のお店など、一年過ごしても飽きることのない工夫がされています。また、食料品や日用品は大学そばの Walmart などで購入できますが、多くの留学生は外食が安いので外食に頼っています。最近では外売 (waimai) という食事のデリバリーサービスが普及して、スマホ一つで部屋にいながら食事ができるようになりました。ほんとうにおいしくて安くて便利です。日本でも普及してほしいサービスの一つです。

・観光

中国はとても広く、地域によって言語や文化など様々な面で異なるので、色々な中国をもっと知りたいと思い、休暇中はほかの都市を観光しました。冬休みには中国人と日本人で、東北地方の哈爾濱 (ハルビン) へ旅行しました。大連から哈爾濱へは中国新幹線の高鉄 (gaotie) で 4 時間ほどです。高鉄に乗っていると、車窓から見える大都市の発展したすがたと、土壁やレンガの家と畑だけが広がる農村のギャップに改めて驚かされました。哈爾濱では零下 20 度のなか、ロシアや満州の文化が残る観光地や世界最大級の氷祭りを訪れ、普段の大連とは違う中国の世界を楽しみました。そのほかにも、上海、紹興、桂林、丹東、宜春、シンガポールなどほかの民族や文化に影響を受けている中国各地を訪れました。

・留学に興味のある後輩たちへ

留学は費用や時間の面において負担の大きい行動だと思います。しかし、留学経験のある先輩方に「留学する」という決断を後悔したか聞いてみてください。ほとんどの方が「留学して良かった」と言ってくれるはずです。留学に興味があるならば、ぜひ「留学する」という決断をしてほしいと思います。

最後になりましたが、学術国際課の先生方、ゼミの陳韻如先生、留学先でお会いした方々、そして両親に、この場を借りて心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



○国立高雄大学（台湾）／李 山河（経済学部 2 回生）／2018 年 2 月～2018 年 5 月



長いようで短かった台湾での 1 年の留学生活は、あっという間に終わってしまいました。私は台湾の高雄というところで留学生活を送りました。私も今回の留学をきっかけに高雄を知りましたが、実際に住んでみると思ったよりはるかに住みやすい町でした。もちろん最初は買い物すらまともにできず大変なことも山ほどありましたが、少しずつ生活に慣れていく中で、中国語もできるようになり、慣れないと思った台湾の料理や天気にもなれるようになりました。海外で暮らすためには、色々な困難を乗り越えないと

いけません。時には諦めたいと思ったり、もう帰りたいと思ったりするかもしれませんが、それを乗り越えて初めて、これまで体験することのなかった達成感や自分の成長を実感することができると思います。私も留学期間中、様々な困難や不安がありました。たくさんの良い人に出会い、支えられ、有意義な留学生活を送ることができました。

私が今回の 1 年間の交換留学で得たものはたくさんあります。大きく分けると語学力、友達、自分の成長、この三つです。まずは語学力についてですが、台湾の中国語が大陸（中国）の中国語と多少違いがあるということはすでに多くの方がご存知かと思います。台湾国内でも私が住んでいた高雄は台湾の原住民がたくさん集まっている町で、中国語だけではなく台湾語というものもよく使われています。そのため、私は中国語はもちろん台湾語も少し話せるようになりました。高雄大学の交換留学生向けの中国語授業は 1 セメスター三～四つあります。授業は主に会話を中心に行われますが、学生の希望があると文法の授業の割合が増えたりもしますので、セメスターによって授業の流れは変わる可能性はあると思います。私の場合、最初の半年間は中国語の授業を中心に中国語を習得しようとしたのですが、留学の先輩から台湾人の友達たちとの触れ合いがもっと重要だということを知ってからはできるだけその機会を増やそうとしました。私が自ら両方とも試してみた結果、どちらも重要だという結論が導かれました。中国語の授業で語彙力を高め、実際に友達に使うことで活用をすること、これが私の体験上最も効率的な学習方法じゃないかと思います。

私が交換留学で得たものの二つ目は友達です。実は、私は充実した留学生活を送るために最も必要なのは良い友達だと思います。私が様々な困難や不安を克服できたのもすべて友達のおかげだと思います。台湾にいる 1 年間、日本人、韓国人、タイ人、インドネシア人、ドイツ人など各国の人と友達になり、お互いの国の料理を作ってご馳走しあったり、友達のユーチューブチャンネルに出演するなど本当に楽しいことがたくさんありました。その中で、友達たちとの思い出で最も印象に残るのが「東語之夜」に参加したことです。「東語之夜」は私が所属していた東アジア言語学科で開かれる最も大きな文化祭で、昨年の東語之夜では台湾の学生たちがこれまで学んだ日本語や韓国語、ベトナム語を使い演劇をする演劇大会が開かれました。留学生の参加も可能だったので友達のお勧めで私も参加することになったのですが、人生初の演技は思ったより簡単なものではありませんでした。そのため、約 2 か月間放課後は毎日のように演劇の練習をしました。あの時は練習をさぼり

たいと思ったことも何回かありましたが、今振り返ってみるとあの時は本当に楽しかったなと思います。素敵な思い出をたくさんくれた友達たちに感謝の気持ちを忘れずこれからも頑張りたいと思います。

私が交換留学で得たものの三つ目は自分の成長です。実は留学に行く前の私は、消極的でネガティブな人でした。何か不満や納得のいかない状況がきたら全てを環境のせいにしてきたのも事実です。台湾で1年間過ごしながら様々な価値観を持った人々と出会い、話し合い、たまには一緒に旅行に行くことで他人を認め、自分の間違いに気づき反省しました。自分が悲しい時や疲れた時にも多くの人々に支えられているということにも気づくことができました。また、様々なことに挑戦したことで自分でもやればできるという自信も身に付きました。1年間の交換留学の経験によって私はより強くなり、それはこれからの人生にも大きな力になると思います。留学に行く前は、心配や不安もたくさんありましたが、自分を一層成長させるためには留学は行くべきだと思います。何か自分を変えたい、成長させたいと思う方に私は海外で一回暮らしてみることをお勧めしたいです。

1年間の台湾での交換留学は、私の人生の大きなターニングポイントと言えるくらい私の考え方や価値観を大きく変えました。新しい環境で新しい人々と新しいことを学ぶことは、今のうちの私たちができる最も大きな勉強ではないかと私は思います。また、交換留学でつくったたくさんの思い出や友達たちはこれからの私の人生に大きな力になると思います。いつかまた台湾に行きたいと思います。その日まであと残り1年の大学生活も頑張りたいと思います。1年間お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

○サウスイーストノルウェー大学（ノルウェー）／和田 輝（教育学部4回生）／2017年8月～2018年6月

・秋学期：Norwegian Cultural Journey 2017（8月中旬～12月中旬）

秋学期はヴァイキングを中心としたノルウェーの文化を学び、ノルウェーの教育システムの中でそれらの伝統文化がどのように教えられているかを、日本やスペインでの教育システムと比較しながら学んだ。今回のこのコースでは残念ながら、スペイン人と日本人しか履修しておらず、ノルウェーとスペイン、日本と多様性に富んだ授業とは言えなかった。しかし、私にとってこのコースは、日本人の根底にあるものや伝統文化をどのように、教育的アプローチから継承していくべきかを考える貴重な機会であった。またノルウェーとスペインでの教育システムや、指導スタイルを知ることで、日本の教育的特徴を再確認し、どのように改善すべきかを学んだ。実際に地元の小学校へ二週間の教育実習に参加するなど、実りの多い秋学期であった。



学期終了後は、教育実習先と話し合い、スクールボランティアとして残ってノルウェーの小学生たちと一緒に過ごすことができた。実習先の依頼もあり、折り紙や手巻き寿司を作る授業もさせてもらった。ノルウェーの教育システムを学ぶだけでなく、自国の文化を学び直すこともできた。プライベートでは、クラスメイトにスペイン人しかおらず、仲良くなるまで時間がかかったり、授業内のグループワークで英語ではなくスペイン語が飛び交ったりと苦労した。しかし、試験休みや学期終わりに北欧諸国を周ったり、ゾイド大学の友人を訪れたりと充実した日々を過ごすことができた。生活や体調面としては、朝方の暗い時間帯に登校し、授業が終わると日が落ち始めているので、経験したことのない感覚で少し不安であった。日本から持って行ったサプリメントで補助的にビタミンを摂取していたのが良かったのかもしれない。この秋学期は環境にうまく適応することができたと思う。

・春学期：Outdoor Education and Experiential Learning 2018（2月～6月中旬）

春学期は秋学期よりさらに教育に関係の深い学習内容であった。このコースでは地域の自然の中で教育的な活動を通じてどのように児童生徒を成長させるべきかを学んだ。クラスメイトは秋学期とは違い、様々な国から生徒が集まっていた（アイルランド、スペイン、デンマーク、ドイツ、ノルウェー）。さらに国立公園の一部のネイチャーセンターで二週間の教育実習を行い、ノルウェーのアウトドア教育がどのようなものを学ぶことができた。

大学での座学に加えて、エクサカーションや教育実習などを通じて、実体験に基づく学びについてグループで考え、発表したり、それぞれの国のアウトドア教育についてディスカッションを行ったりした。アウトドア教育はノルウェーを中心とした北欧諸国では大変メジャーな教科であるが、日本ではまだまだ馴染みのない内容ばかりで興味深いことばかりであった。例えば、日本で自然からの恩恵について考えるのは、社会科や理科の教科書で触れるだけで、教科として独立していない。しかしノルウェーでは、独立した教育活動として自然と触れ合い、児童生徒たちに、その活動の中から学ばせる教育制度や教育形態が整っている。さらにそのような自然体験活動の中では、児童生徒たちに最低限のルールや注意事項があるが、基本的に児童生徒たちは自由に行動できる。これは児童生徒たちの興味に沿った体験を提供し、その体験学習を手助けしていくことができる。決して、教科書を読むことを強要、教室中での活動ではなく、屋外活動を通じてどのように自然と向き合い、共存共生していくかを考える実体験に基づく学びであった。プライベートでは、クラスメイトと出かけたり、一緒に食事をする機会が増えた。授業内だけでなく、放課後でも英語を使う機会が大幅に増え、秋学期よりもさらに英語でのコミュニケーション力が向上したように思える。また日本から家族や友人を呼ぶこともできたので、充実した日々を過ごすことができた。

今回の留学を通して、日本の教育現場をいい意味で批判的に見直すことができた。さらに文化の違いの中で、自国の文化を紹介することで改めて日本の良さを感じたり、違う文化、人種とどう共存共栄していくべきかを学ぶことができた。この経験を教師という形で、子供たちや社会に貢献できるようにしたい。

○ゾイド大学（オランダ）／橋本 朋佳（経済学部 2 回生）／2017 年 2 月～2018 年 1 月

オランダ・ゾイド大学に 1 年間留学し、自分自身大きく成長することができました。留学以前にもそれなりに海外経験を積んできたと思っていた自分は、まだまだ井の中の蛙で大海を知らなかったことに気づかされました。留学を通して、オランダという新しい地に足を踏み入れることができましたが、世界の広さを、今までの自分の小ささを痛感し、これから先より多くのことを学んでいきたいという目標を得ました。大学での生活を通して学んだこと・留学生の寮で体験したこと・日本語補習校でボランティア活動をしたことの 3 点を取り上げて、そこから学んだことや考えたことについて述べようと思います。



様々な国や地域からきている、自分とはかけ離れた背景を持つ学生で構成される授業はとても刺激的で、考え方の多様性について学ぶことができました。オランダをはじめとする、フランス・ドイツ・ポーランドなどのヨーロッパからくる学生に加え、中国・韓国などのアジアからくる学生と一緒に授業を受けました。生徒もそうですが、先生もオランダ・スペイン・ブラジルなど、様々な国からゾイド大学に集まってきています。クラスに日本人は自分だけでしたので、積極的に英語使っていかなければならない状況で、コミュニケーションの能力を伸ばすことができたと思います。1 年間の留学の中では、悔しい思いをすることもありましたが、そこから成長することもできたと思います。オランダ人学生 2 人、ドイツ人留学生と私の 4 人で 1 週間のプロジェクトの時です。スポーツドリンク会社のマネジメントゲームをするチーム対抗プロジェクトで、限られた時間の中で、会社の経営状態を分析し、次のシーズンに向けて意思決定をしなければなりません。はじめは、話し合いのスピードについていくことができず、自分の無力感を痛感し悔しい思いをしました。2 日目の終わりに中間報告書の提出があったので、そのために、その日、書記を担当することになりました。話し合いの内容を書いてまとめると自分の考えもまとまり、グループワークでより発言できるようになりました。書記を続けたことによって、自分も発言を増やすことができたし、最終報告書の提出の時にもその書記した内容がとても役に立ちました。微力ではありながらも、自分のできることをまっとうすることは大切だとわかりました。また、ゾイド大学の日本語学科では、オランダ人の学生が日本語を学んでおり、彼らとは、日本語や英語で会話し、良い友好関係を築くことができました。その関係は、帰国後の今も続いています。

寮は、世界中から学生が集まってきており、これほどに異文化体験ばかりの生活は、なかなか他ではできないと思います。20 人でキッチンと洗濯機が共用ですので、汚いことや、洗濯機がなかなか使えないなどの問題もありましたが、とても楽しく過ごすことができました。その楽しく過ごせたのも、一緒に食事することから始まったのだと思います。一緒に食事するときは、たいてい自分の国の料理を作ってきて、それぞれの料理をシェアして食べます。私も日本食を作って何度か参加しましたが、どの友達も「とてもおいしい」と言って食べてくれました。中でもお好み焼きや餃子は

好評でした。日本食といえば、寿司というイメージが強かった友達にも、寿司以外のおいしい日本食を広めることができましたし、一緒に食べない日でも料理をしていると、「なにを作っているの？」と頻りに聞かれるようになりました。このように、食事を共にすることによって、そして日本食を紹介することによって、より多くのコミュニケーションをとることができました。衣食住という生活スタイルの基本、つまり各々のバックグラウンドを共有することで、心の距離を近づけることができると学びました。

3 つ目は、日本語補習校でのボランティア活動についてです。マーストリヒトの日本語補習校へは、日本人の親を持つオランダ・ドイツ・ベルギーの小・中学生が毎週土曜日に集まって国語と算数または数学の授業を行います。そこで、私は授業の補助ボランティアをしました。人にものを教えることも初めての経験でしたが、子供たちから元気に話しかけてきてくれたので、楽しく活動することができました。補習校に来ている子供やその親さん方とも話している中で、海外で生きていくことの大変さや良いところについても聞くことができました。これから先、海外で生きていく心構えが、すこしできた気がします。

1年間のオランダ留学を通して学んだことは、ここには書ききれないほど多くあります。多くの友達に恵まれ、日本の家族の支えによってこそ、留学を成功させることができました。支えてくださった皆さんに感謝しつつ、今後も留学の経験を生かして励んでいきたいと思えます。

○ゾイド大学（オランダ）／小澤 萬里（経済学部 3 回生）／2017 年 8 月～2018 年 7 月



私は、3 回生の後期から 4 回生の前期までの 11 ヶ月間、オランダのゾイド大学に交換留学した。留学中、日本では得られない多くの貴重な経験が得られた。

・留学した理由

留学を決意するにあたって、大きな転機になったのが、2 回生時に参加した国際交流のプログラムでの経験である。私はかねてから国際交流に関心があり、内閣府主催の外国人学生と英語でディスカッションを行うプログラムに応募した。選考を通過し、実力を見せつけようと意気揚々と臨んだ。ところが、いざディスカッションになると、全く自分の意見を言えず、自信は脆くも崩れ去った。また、滋賀大の報告会でも、何を成果として得たかという根本的な質問にうまく答えることができず、辛酸を舐めた。

この 2 年生の夏の経験から、留学を通じて、海外の学生とのディスカッションにも耐えうる英語力、そしてディスカッションで意見を述べる為に必要な知識と思考力を身に付けたいと考えた。さらに、交換留学に応募するにあたり、留学する目的や計画を具体的にした。そして、3 回生の 5 月に正式に交換留学生に選ばれて、9 月にオランダに出発した。

・現地の授業

留学の英語の必要条件ぎりぎりのスコアしかなかった私は、第1セメスター（9月から2月）は、**Oriental language and Communication** コース（以下 OTC）で英語とコミュニケーションを学び、第2セメスター（2月から7月）から、希望していた **European Studies** コース（以下 ES）で EU や国際関係などを学ぶことになった。

ES はディスカッションやプレゼンテーションが毎週あると聞いていたので、前期は、授業に慣れることと英語力を可能な限り引き上げることに注力した。とりわけ、OTC で受講した **Organizational Behavior** という授業は現地の三年生用の授業であり、専門用語がかなり多く、準備にとっても苦労した。毎週、予習復習を繰り返して、結果的に10人いた留学生で唯一パスすることができた。

後期受講した ES では、少人数でのディスカッションの授業が中心だった。EU や国際政治などの分野がテーマで、予習には3, 4時間の準備を要した。準備した内容が、授業では一瞬ですぐたり、先生にいきなり意見を求められたりして、うまく答えられなかったりもしたが、学期の終盤では、ディスカッションで対等に意見を交わせるまでになった。過去、自分の意見をうまく伝えられない経験を何度もしていたので、自己主張の強いオランダ人学生とのディスカッションで、対等に意見を交わせたことはとても嬉しかった。

・オランダでの友人

ヨーロッパの学生と友情を築くのは、容易ではない。言語の問題もあるが、アジア人に興味を持つ人はかなり少ない。また、何度も差別を経験した。オランダでは、日本と異なり、積極的に話すことや個性をアピールすることがかなり求められるので、当初はその違いに戸惑った。ミスや体裁を気にしていた時期もあったが、この留学期間中は、ためらいを捨てようと思い、思い切って自分の意見をぶつけてみると、予期せずして親しい友だちができた。

とりわけ3人の友人には、多くの刺激を受けた。一人の日本人留学生と二人のオランダ人学生である。日本人の留学生とは、互いに留学に来た目的や目標がはっきりしていて、彼の意見や姿勢から多くの刺激をもらった。留学中は日本人と関わらないほうが良いという意見もあるが、苦楽を共にした日本人だからこそ、文化の違いや将来のことなどについて話し、考えを深めることができたと思う。

また二人のオランダ人の学生とは、ジムに一緒に通ったり、料理をしたりして、日本とオランダ、ヨーロッパの間での文化の違い、人生観、今までの経験など多くのことについて話した。彼らから、「常にベストを尽くす」「物事をポジティブに捉える」などの多くのことを学んだ。留学する前の私は、意見の対立や自分と異なる意見を持つ人を恐れ、自分を肯定してくれる人を選んでいった。オランダでは、意見の食い違いから、口論になることが何度もあったが、その度に新たな学びがあった。彼らとの出会いは、私が留学で得た大切な宝物のひとつだ。

・学校外での活動

学校で学ぶ以外に、現場に赴いて自分の目で確かめるということも意識した。私の留学のテーマは「平和の手段の代表例である EU の仕組みを学び、国際関係のあり方を考えること」と「難民問題について、ヨーロッパの現状を自分の目でみて、自分なりの意見をもつこと」だった。

留学期間中、私の住んでいたマーストリヒトから電車で1時間ほどのブリュッセルにあるEU本部に何度も足を運び、EUの歴史、背景、理念などをEUの職員にインタビューした。また、近隣の国へ出かける際にも、西欧と東欧ではどのような違いがあるか、EU加盟国内での経済格差などの視点を持って観察した。さらに、国際機関で働く日本人の方にお会いして、日本人が世界にどう貢献できるかなどについて聞いた。留学終了前には、オランダのハーグにあるICCで開催されたユースのシンポジウムに参加し、各国の学生と意見を交わした。難民問題についても、アフガニスタンから亡命してきた人にインタビューをした。授業だけでなく、実際に現場に行ったことで理解や実感は大きく深まった。

・留学で得たもの

私が交換留学で学んだものは、三つに大別できる。

一つ目は、新たな当たり前基準だ。留学中、オランダ人の学生の多くが、私の予想をはるかに凌駕する量の学習をしていた。彼らと共に過ごす中で、自分の努力の基準も上がった。留学を終えた今、自分の中の努力の基準は、留学前よりはるかに高い。

二つ目は、全く異なる背景をもつ友人から得た、新たな視点だ。オランダは「話し合いの文化」と言われ、授業でも友人間の喧嘩でもとにかく話し合っ解決する。私も多くのディスカッションや話し合いを経験して、その度に新しい視点や切り口を得た。

三つ目は、何度も困難な状況を乗り越えて得た自信だ。留学中、逃げ出したくなるような辛い経験もあったが、困難な状況に直面するたびに、正面から向き合っ解決してきたことで、今後困難なことがあっても、打破できると思えるようになった。

最後に、面接をしてくださった森先生、快く送り出してくださったゼミの弘中先生を初めとする先生方、留学の準備段階からサポートしてくださった学術国際課の方、そして両親など私の留学を支えてくださった全ての方々に感謝しています。ありがとうございました。

○ゾイド大学（オランダ）／岸 清子（教育学部4回生）／2017年8月～2018年7月

・留学動機

私は2017年8月から2018年7月まで約11ヶ月間、オランダのゾイド大学に交換留学していました。留学を決意したのは3回生が終わり、教員採用試験の勉強を始めたばかりの頃でした。中学生の頃からいつか留学したいと思っていましたが、遅すぎる、お金がないなど、自分に言い訳をして留学を諦めていました。しかし4回生を目前にやはり自分の英語力を高めたい、そして日本の外にある広い世界をみて自分の考えや世界を広げたいと思い、留学を決意しました。



留学先に英語圏ではないオランダを選んだというと多くの人は不思議に思われますが、私がゾイド大学を選んだ理由は大きく分けて二つあります。一つ目はオランダ人の英語力の高さです。オラ

ランダの公用語はオランダ語ですが、オランダ人の英語力の高さは世界トップレベルで、実際にほとんどのオランダ人が英語をネイティブレベルで話していました。英語を学ぶだけでなく、なぜオランダ人がそれほど上手に英語を話せるのかということに興味をもち、オランダを留学先として考えるようになりました。また、二つ目の理由として国際交流の機会が多いことが挙げられます。ゾイド大学はヨーロッパだけでなく様々な国からの留学生が多いので、授業だけでなく普段の生活においても異なる国の文化や考え方に触れることが出来ます。さらにキャンパスのあるマーストリヒトはドイツとベルギーの国境地帯にあり、国際的な街です。将来教員になった時に異文化コミュニケーションに重点を置きたいと思っていた私に、オランダのゾイド大学は最も適当であったため、オランダへの留学を選択しました。

・ゾイド大学

ゾイド大学は2学期制で、日本の大学のように授業をひとつずつ選択するのではなく、決められたコースパッケージを選択します。私は前期に東洋言語コミュニケーションを、そして後期にヨーロッパ研究というコースパッケージを選択しました。東洋言語コミュニケーションでは日本語、中国語、そしてアラビア語を勉強しているオランダ人学生と一緒に授業を受けていました。このパッケージではコミュニケーションの理論や、国際的な企業において異文化が原因で起こった問題をどのように解決していくか、などを学びます。異文化について考える授業もあり、他の国の文化をみただけでなく、日本の文化が話題になることも多くありました。日本人以外の視点から見た日本の文化を知ることは新鮮で、日本にいた時には気づかなかったようなことも学ぶことが出来ました。英語の授業もコースパッケージに含まれており、一つは学術的な文章の書き方、そしてもう一つは留学生のためのスピーキングに重点を置いたクラスでした。内容は基礎的なことから発展的なものまで様々で、先生方のサポートがとても厚く、英語力向上につながりました。

ヨーロッパ研究では主にヨーロッパの政治、経済、文化についての授業や、ヨーロッパからみたアメリカ、そして留学生向けのオランダについての授業がありました。政治や経済は予備知識があまりなく、授業を理解するのも遅くなってしまい大変でしたが、オランダ人学生に助けてもらい、何とかやりきることが出来ました。

二つのコースパッケージに共通していることはプレゼンテーションやディスカッションが多いということです。受動的に授業に参加するのではなく、積極的に授業に参加していくことが求められました。最初は英語力に自信がなく、たとえ答えがあっている場合でも発言することが難しかったですか、徐々に慣れていき発言回数が増えていきました。また、プレゼンテーションではグループですることが多く、進めていく中で日本との文化の違いを強く感じました。例えば日本は全員で内容を考え、一緒に練習するということが多かったのですが、海外の学生と取り組むと、より個人的で自分のパートは自分で考え、一人で練習するということがほとんどでした。授業の内容だけでなく、日本人以外の学生とグループワークをすることは学びが多く、とても面白かったです。

さらに一年を通してオランダ語の学習をすることもできます。オランダ語の授業は実践的で、同時にオランダの文化についても学ぶことが出来ます。分からないことがあればオランダ人の友人が何人も集まって教えてくれました。日常生活でオランダ語が使えた時とても嬉しく、オランダ語学習のモチベーションにつながりました。

・オランダでの生活

オランダは治安が良く、快適に生活することが出来ました。物価も日本とそれほど変わらず、野菜や果物は日本よりも安いので自炊をすればそれほどお金を使わずに生活することが出来ます。オランダについたばかりのころは思っていた以上に街中オランダ語だらけで意味が全く分からず不安になりましたが、話しかけてみれば誰もが英語を話すことができ、住んでいくうちにオランダ語の意味も分かるようになっていくので心配はいりません。住んでいたアパートにはヨーロッパからだけでなくアジア、エジプト、そしてアフリカなどから来た人たちがいました。キッチン共有だったので文化の違いからもめることもありましたが、学校外でも異文化に触れる機会を得ることが出来たのはとてもよかったと思います。また、学校外の活動として、近くの日本人学校にボランティアとして週に一回行かせていただきました。運動会などの特別な行事にも参加させていただき、なかなかできない経験をさせていただきました。

・オランダで出会った人たち

オランダで出会った人たちのおかげで私の留学はとても充実したものとなりました。特に日本語を学習しているオランダ人との交流が多かったです。留学当初は英語だけで毎日コミュニケーションをとるということは思っていた以上に難しく感じられ、時には自分の言いたいことが伝えられないということがありました。しかしそんなときにも何を言いたいのか理解しようとしてくれる彼らの姿勢に何度も助けられました。また、オランダ人の友人の家に招待してもらい、普通は絶対にできないような異文化体験をすることが出来ました。

しかし、すべて順風満帆というわけにはいかず、文化の違いからクラスメイトと上手くいかないことも何度もありました。そのたびに悩み、苦しみましたが、その経験も私を大きく成長させてくれました。オランダで出会った人たちのおかげで私は人として大きく変わることが出来ました。異なる文化や価値観に触れることで自分がいかに日本人であるか、さらに他の文化を理解し受け入れることがいかに難しく、そしておもしろいものであるのか、ということを経験を通して学ぶことが出来ました。

・留学について

留学を決めた時は人より遅いスタートで、これで本当にいいのかと悩んだこともありましたが、留学を終えた今、あの時の決断は間違っていなかったと感じています。この約11ヶ月間のオランダ留学で悩み、苦しむこともありましたが、周りの人に支えられ、楽しく充実した日々を送ることが出来ました。今後はこの経験を糧にしてもう一度海外に出る、という新しい目標に向かって日々前進していきたいと思っています。最後にこの場をお借りしてお世話になった滋賀大学国際学術課の方々、担当教授、友人、そして家族に感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

○ディーキン大学（オーストラリア）／大西 慶明（教育学部 4 回生）／2018 年 2 月～2018 年 11 月

私は、2018 年 2 月半ばから同年 11 月半ばまでオーストラリアの Deakin 大学 Burwood キャンパスに交換留学しました。滋賀大学からの交換留学には様々な選択肢がありますが、このレポートでは、私の留学体験を報告します。

私は大学入学当初から英語を話せるようになりたいという志がありました。友達にも恵まれ、英会話サークル SULEE を立ち上げ、毎日英語を話す環境を作ることができ、1 回生の時から英会話の練習に励んでいました。1 回生の終わりの春休みに短期オーストラリア研修プログラムに参加し、留学先である Deakin 大学の付属語学学校に行きました。このプログラムに参加することで英語スキルの飛躍的上達を感じることができ、以後、長期留学を目指すようになり、交換留学に関する情報収集を始めました。

実際私が、留学の準備を本格的に始めたのは 4 回生の 4 月からです。実際に行った準備としては、IELTS の留学先大学が指定する点数を取るための勉強とこれまで Deakin 大学へ交換留学をされた先輩に直接連絡を取り実体験などを聞くことでした。IELTS の受験回数は私の場合計 4 回で、英語能力試験だけで 10 万円程度かかってしまいました。IELTS には英語の四技能すべてが問われる試験なので、Writing と Speaking はどうしても自分一人では練習しきれない側面があり、チェックしてもらうバディーが必要です。私の場合、Speaking は SULEE の仲間が協力してくれて、Writing は英語科の先生に頼んで指導していただきました。私の出国時期は 4 回生の 2 月だったので、卒業必須単位はほぼすべて取り終わった状態でした。

Deakin 大学を選択した一番の理由は、Gender and Sexuality Studies という専攻がリニューアルされたことです。私が大学選択をするうえで大事にしていたことは、自分が何を勉強したいかということです。準備を進めていくうえで、交換留学担当の先生から説明されたことは、次のような事でした。交換留学の意図は、海外・現地だからこその学習をしてきてもらいたいということです。つまり、言語面の上達のみ（語学学校に行くだけ）を目的とするのでは交換留学の意図には沿わないということです。なので、私は何か自分の興味のあることを見つけ、それを現地の大学で学ぼうと決心しました。そこで、最終的にたどり着いた、私の一番モチベーションをもって勉強できる分野が Gender and Sexuality Studies でした。その分野が見つかるまでは、アメリカの候補大学や Deakin 大学をとりあえずリサーチし、選択できる専攻を選ぼうと考えていました。それと同時に、そんな考えで交換留学に行っているのかと悶々としていました。3 年生が終わろうとする頃、同性愛、両性愛、性別違和、インターセックスなど LGBT と総じて扱われる性的少数者の事についてもっと知りたいという思いから Gender や Sexuality について学習したいという強く思うようになりました。その同時期に Deakin 大学のウェブページで Gender and Sexuality Studies 専攻がリニューアルされるという告知を見て Deakin 大学に留学することを決意しました。



現地での生活については、1 学期目は大学寮に、2 学期目は大学付近のシェアハウスに住んでいました。大学寮を選んだ理由としては、寮生活をしてみたかったからです。シェアハウスやホームステイという選択肢もありましたが、下見やオーナー、ホストファミリーとの事前交流ができないこと、出国まで時間がなかったということもあり大学寮を選択しました。大学寮にも様々な種類の部屋がありますが、私の場合学生 6 人でキッチン、シャワー室 2 室、トイレ 2 室を共有するアパートのようなところで、自分の寝室は完備されているところでした。週に 2 回クリーナーがきて共有スペース（キッチンやトイレ）を掃除してくれます。しかし、トイレトーパーとゴミ袋を除き、布団やキッチン器具など何も供給されませんので、すべて現地で購入しなければいけませんでした。寮に入って最初の週には様々なイベントやオリエンテーションが催されます。初週だけでなく、学期を通してフリーフードや映画観賞会、カラーランなどのイベントがあります。また、フロアごとに寮リーダーがいて何か困ったことがあれば相談できる環境でした。

イベントには参加していたものの、個人的にはあまり楽しく過ごせなかった寮生活でした。みなそれぞれ生活の仕方が違うので仕方ありませんが、寮でのハウスメイト 5 人はみな部屋で過ごす時間が多く、私なりに交流する努力はしたものの十分に交流できず、大学から帰ってきて話し相手がいないう状況で寂しさを感じることも多々ありました。そのように感じていた 1 学期目に、大学寮で出会った日本人の留学生から大家を一人紹介してもらい大学から徒歩 15 分のところにシェアハウスを見つけることができました。シェアハウスでは同じく 6 人で家を共有してコミュニケーションがよく取れる環境だったので毎日家で楽しく過ごすことができました。

食事に関しては、寮でもシェアハウスでも自炊メインに過ごしていました。メルボルンは物価が高く、特に家賃が高いので、外食ばかりしてはいただけませんでした。食材を買いに行くスーパーはトラム（路面電車）に乗って 10 分弱のところに行っていました。恵まれていたことに、メルボルンは多文化都市でアジア系の移民数・コミュニティが大きくアジアマーケットもいたるところにあり日本の調味料なども割高ですが調達できます。

私は留学に行くまでずっと実家暮らしだったので、最初の数ヶ月間はホームシックで辛くなりました。しかし、Deakin 大学には JASS (Japanese Australian Student Society) というサークルがあり現地の学生だけでなく、他国からの留学生も所属していて友達作りにはいい環境だったので所属することにしました。

季節・天候に関しては、1 週間での気温差が激しく、特に春と秋には 1 日の最低/最高気温が 10 度以上変化することがよくあります。

大学の学習環境については、2 学期目から図書館が 24 時間開館になりパソコンも数十台完備され有効活用していました。またメルボルン内にある大学であれば、共通の ID とパスワードでどこの大学内でも wifi が使えるシステムが導入されていていつでも利用できます。

現地での授業は、私の留学目的でもある Gender and Sexuality Studies で知識を得ることだったので、Sex、Gender、Sexuality に関する専門科目と関連した哲学や社会学の科目を履修していました。特徴として多分野にまたがる学術分野なので、法律、政治、マーケティング、教育、心理、社会・文化、歴史、メディア、哲学、医療、文学など、私たちの身の回りにあることほぼすべてが対象となる分野です。特にポリティカルなテーマが多く、オーストラリアの歴史的背景の教養が必要で

した。ざっくりばらんに文系と言われる分野であればだいたいなんでも授業で扱われます。現地の学生でも一から十まで理解している学生はいなかったように思います。

文系なので特に読む量が多く、1つの授業につき毎週30ページ以上の論文や学術記事が予習として課されます。また、レポートなども参考文献の引用を最低5件はしなければならず、読解力、情報収集能力が問われます。私の滋賀大学での専攻は数学教育で、また、普段から読書やニュースに関心がなく、読む行為自体に慣れていなかったのも、最初から多量の文書を読むことができず予習をまともにできないまま授業を受けることが続きました。授業で自分が何を理解しているのか、理解していないのかもよくわからず、先生との相談に行っても自分がどのような助け・支援がほしいのかを伝えられず、「自分は何をしているのか」「目標にたどり着くことができる気がしない」と自分の無力さを感じ、最初はずっと落ち込んでいました。ただ、Deakin大学はすべての授業を録音・録画しているので授業後何度でも繰り返し復習することができます。また、親切にも先生は私に課題期限の猶予を与えてくださり、できる限り私が授業についていけるように手立てをしてくださりました。

留学を振り返って、私の留学目的であった **Gender and Sexuality Studies** の知識を広げることへの到達度は決して高くはなく、その原因は言語能力不足とその学習分野の基礎知識不足でした。新しいことにチャレンジするときにはどれだけ準備をしてもしすぎることはないですが、言語力と読解力が私の課題で準備不足であったということがわかりました。しかし、自分のできる範囲での努力は行い、その範囲内で知識を得、視野を広げることができました。**Gender and Sexuality Studies** は、ただ学術的知識・研究だけでなく、「ちがひ」というものにどう向き合えばいいのか、社会はどのように構築されているのかという洞察力を私に与えてくれました。

また、過去の過ちを反省し、原住民であるアボリジニの人々へのリスペクトを大切にされていて、留学生として大切な学びとなりました。Deakin大学のウェブサイトには、「We acknowledge the traditional owners of the lands on which Deakin University stands and we pay our respect.」

(訳：私たちは Deakin 大学が立つこの土地の伝統的所有者を認め、敬意を表します。)(Deakin University 2019) という文言が記されています。私の履修した授業の中で1人の先生は似た文言を必ずパワーポイントにも書いていらっしゃいました。沖縄の島人や北海道のアイヌなどが本州での政治によって周縁化され生き辛くなっていないかと考えるきっかけにもなりました。

この留学を通して自分の人生観や価値観は大きく変化したと思います。楽しいことばかりでは決してありませんが、交換留学はすべての瞬間がチャレンジで、人として成長できたと実感しています。この留学は100点満点の成功体験ではありませんが、「チャレンジして本当に良かった」「かけがえのないものを得ることができた」と私は思います。この経験は、本当にたくさんの方の支援なしにはやり遂げられなかったことだと思います。最後になりましたが、留学を応援してくれた家族や友達、たくさんの相談とアドバイスをいただいた児玉先生と数学専攻の先生方、国際センターの高木さんと松下さんをはじめ、私の留学に関わってくださったすべての方に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

(引用文献：Deakin University 2019, *Home / Deakin University*, Deakin University, 閲覧日 2019年3月6日, <https://www.deakin.edu.au/>)

V

語学試験について

交換留学制度の派遣先大学の中には、所定の語学検定試験の基準点以上の語学力を要件としている大学があります。基準点以上の語学力を獲得できるよう、早めに準備を始めるようにしましょう。

1 英語

TOEFL (Test of English as a Foreign Language)

TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は、英語を母国語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテストです。大学の授業やキャンパス等の実生活でのコミュニケーションに必要な読む、聞く、話す、書くの4技能を総合的に判定します。現在、日本ではTOEFL-iBT (Internet-Based Testing) のみ受験できます。

TOEFL は、Reading、Listening、Speaking、Writing の4セクションで構成されており、テストセンターで一人に1台割り当てられたコンピュータ上で全セクションを受験します。テスト所要時間は4~4.5時間です。全セクションでメモをとることが可能で、Speaking セクションではマイクに向かって話します。Speaking と Writing のセクションでは、同時に複数の技能を測定する問題 (Integrated Task) もあります。

スコアは受験した日からおよそ10日後にオンライン上で確認することができます。点数に加え、「スコアの持つ意味」の解説 Performance Descriptor も示されます。

テストは、全国各地の会場で年間30~40回程度 (主に土、日曜日) 実施されています。必要があれば一年に何度でも受験することが可能です。

申込みは、オンライン (ETS の TOEFL-iBT 公式ページの My Home Page から申し込む)、郵送、電話で受け付けています。受験

TOEFL iBT テストの構成

セクション	問題数・形式	時間	スコア
Reading	3-4パッセージ 各12-14問 (1パッセージ約700語) ・選択問題 ・文を挿入する問題 ・グループ分けする問題 など	60-80分	0-30
Listening マイク付き ヘッドセット使用	2-3会話 (1会話約3分) 各5問 4-6講義 (1講義約3-5分) 各6問 ・選択問題 ・表を完成させる問題 など	60-90分	0-30
休憩10分			
Speaking マイク付き ヘッドセット使用	Independent Tasks 2問 (準備: 15秒 解答: 45秒) ・好みと理由を問う問題 ・支持する意見と理由を問う問題 Integrated Tasks 4問 - Read + Listen → Speak 2問 (準備: 30秒 解答: 60秒) ・要約する問題 (大学生活を想定) ・問いに答える問題 (講義を想定) - Listen → Speak 2問 (準備: 20秒 解答: 60秒) ・要約する問題 (大学生活を想定) ・問いに答える問題 (講義を想定)	約20分	0-30
Writing タイピングのみ (手書き不可)	Integrated Task 1問 - Read + Listen → Write (150-225語程度) ・要約する問題	20分	0-30
	Independent Task 1問 (300語程度) ・意見に基づき作文する問題	30分	
Total	4-4.5時間		0-120

出典: CIEE ウェブサイトより抜粋

料は 230 ドル（試験日の 7 日前までの申込み）、270 ドル（オンラインで試験日 4 日前まであるいは電話で前営業日 17 時までの申込み）です。支払いはクレジットカードやドル建ての小切手での支払いとなりますので、注意してください。

*ETS (Educational Testing Service) ウェブサイト URL: <http://www.ets.org/toefl/> (英語)

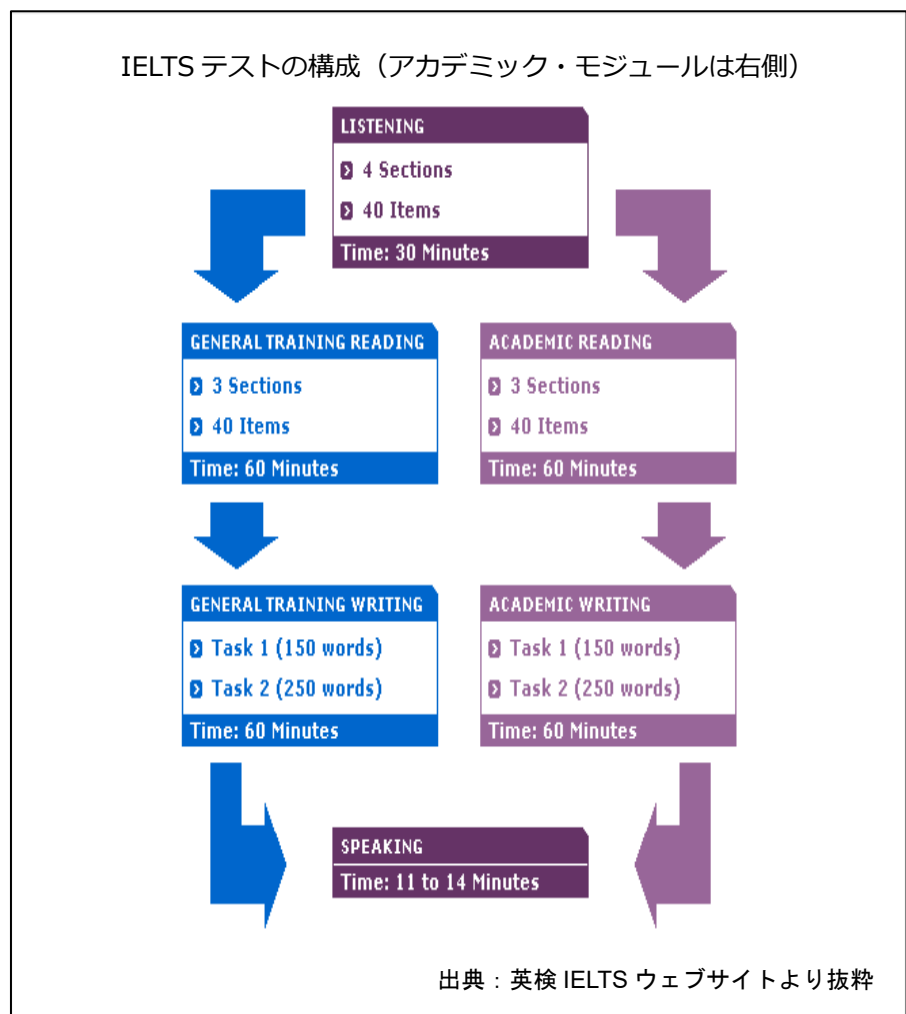
IELTS (International English Language Testing System)

IELTS アカデミック・モジュールは、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド等の大学で英語力を測る基準として使われています。日本では、公益財団法人日本英語検定協会が運営主体となって実施しています。東京、名古屋、京都、大阪、神戸等全国 14 都市で、ほぼ毎週（主に土曜日）実施しています。ただし、実施会場は試験日により異なります。

IELTS は、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの四つのセクションから構成されます。テストの合計所要時間は、約 2 時間 45 分です。リスニング、リーディング、ライティングの筆記試験は同日に実施されます。各セクションの間に休憩時間はありません。スピーキングテストは、筆記試験の前後 6 日以内に、面接式 (Face to face) で行われます。通常、東京と大阪の試験では、筆記試験の翌日に実施されます。詳しいタイムテーブルは、筆記試験の 2 週間前にマイページ上で公開される受験確認書で確認してください。

成績証明書 (Test Report Form) には、総合評価としてのオーバーオール・バンド・スコアと各パートそれぞれのバンドスコアがテスト結果として表示されます。テスト結果は、受験日から 13 日目に発行し郵送されます。

IELTS は、申込みと受験にはパスポートが必要です。申込み締切りは、筆記試験日 5 週間前の金曜日午後 5 時までです。受験料 (1 人 1 回あたり) は、25,380 円です。支払いは、クレジットカード、コンビニエンスストア、郵便局 ATM から選択することができます。



*公益財団法人日本英語検定協会（英検）IELTS 事務局

URL: <http://www.eiken.or.jp/ielts> （日本語）

*IELTS

URL: <http://www.ielts.org> （英語）

○実用英語検定（英検）

公益財団法人日本英語検定協会が運営、実施する日本で最も長い歴史を誇る英語検定試験です。筆記、リスニング、スピーキングのテストで英語技能を測定し合否を判定します。レベルは難易度の難しい順に、1級、準1級、2級、準2級、3級、4級、5級が設定されています。

近年、英検は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの大学等の高等教育機関の一部で、留学時の英語能力を証明するテストとして認められています。英検1級、準1級を留学に必要な語学力として認める大学が多いようです。

*公益財団法人日本英語検定協会 URL: <http://www.eiken.or.jp> （日本語）

2 スペイン語

ODELE (Diploma de Español Lengua Extranjera)

スペイン文部科学省公認のスペイン語力測定試験。スペイン語圏への留学、就職の際の語学レベルを保証するものとして国際的に認められており、日本では年3回実施されています。

レベルはヨーロッパ議会が定める基準に準拠しており、A1（入門）、A2（初級）、B1（中級）、B2（中上級）、C1（上級）、C2（最上級）があります。滋賀大学のスペイン語学習者に当てはめると、A1が1回生修了レベル、B1がメキシコ交換留学（1年）修了レベルです。

*セルバンテス文化センター東京

URL: https://tokio.cervantes.es/jp/dele_diplomas/information_diplomas_spanish.htm （日本語）

3 フランス語

○実用フランス語技能検定試験（仏検）

日本のフランス語学習者を対象に実施される日本独自のフランス語の技能検定試験です。試験日は春季と秋季の年2回あり（1級は春季のみ）、関西では京都、大阪、西宮、奈良、西宮（秋季のみ）の各会場（奈良と西宮は1次試験のみ）で受験できます。

学習状況に応じて7つの級が設けられています。各級の程度は、1級（フランス語を使う職業で即戦力となる高度な能力を身につけている）、準1級（様々な分野についてのフランス語を理解し、かなり複雑な事項も表現できる）、2級（日常生活に必要なフランス語を理解し、かつ的確に発信することができる）、準2級（基本的運用力を身につけ、簡単な質疑応答ができる）、3級（基本的なフランス語を理解し、簡単なフランス語を聞き話すことができる）、4級（基礎的なフランス語を理解し、平易な内容の会話ができる）、5級（初歩的なフランス語を理解できる）です。準2級以上は筆記・聞き取り・書き取りの1次試験と個人面接試験による2次試験があります、3級以下の試験は筆記と聞き取りの1次試験のみです。

フランスの大学への留学には、準1級程度（フランス語の標準学習時間が500時間以上）のフランス語力が必要となります。

* 仏検・公益財団法人フランス語教育振興協会 URL: <http://apefdapf.org/>（日本語）

4 中国語

○漢語水平考試（HSK）

中国政府教育部（日本の文部科学省に相当）の認定する中国語の語学検定試験です。

初級相当の1級から最も難易度の高い6級までの6段階の筆記試験と初級、中級、高級の3段階の口頭試験があります。HSK 証書は中国留学の際の基準や就職等の際に活用されています。

中国や台湾の大学に留学して正規授業科目を履修するためには、HSK6 級程度の中国語力が求められます。

* 中国政府公認「中国語試験 HSK」 URL: <http://www.hskj.jp>（日本語）

5 韓国語

○韓国語能力試験（TOPIK）

韓国政府が認定する韓国語を母語としない学習者を対象とする試験です。

韓国語の普及や試験結果の学習、留学、就職への活用等を目的とするものです。受験レベルは初級、中級、高級の3つあり、成績により6段階の評価レベルに振り分けられます。

* TOPIK 公式ページ URL: <http://www.topik.go.kr/>（韓国語、日本語等）

VI 海外留学奨学金・助成金

1 滋賀大学独自の奨学金・助成金

○滋賀大学教育研究支援基金による海外留学奨励金制度

滋賀大学海外協定校への派遣交換留学予定者に、一時金（アジア圏 10 万円、アジア圏以外 15 万円）が支給されます。

○滋賀大学語学検定試験受験料補助事業

滋賀大学海外協定校への派遣交換留学に応募する者が選考過程において提出を求められた語学検定試験に係る受験料を補助します。補助金額は、受験料の半額が 1,000 円単位で支給されます。

○滋賀大学経済学部及び滋賀大学データサイエンス学部後援会資格取得等報奨制度（経済学部生及びデータサイエンス学部生のみ）

滋賀大学海外協定校に交換留学に派遣される経済学部生、データサイエンス学部生で要件を満たした者に、一時金が支給されます。

○滋賀大学経済学部及び滋賀大学データサイエンス学部におけるグローバルリーダー育成・陵水奨学金（経済学部生及びデータサイエンス学部生のみ）

本学経済学部及び滋賀大学データサイエンス学部の正規の課程に在籍する学生で、在学中に海外の大学の正規課程に 1 学期以上の期間、留学をする者（交換留学を含む）（ただし、入学時に陵水会入会金を納入済の者）を対象に月額 10 万円、100 万円を上限に奨学金を支給します。年間 3 名程度。

○滋賀大学経済学部学術後援基金グローバル人材育成コース学生対象海外研修助成金（経済学部グローバル人材育成コースの学生のみ）

本学経済学部グローバル人材育成コースに在籍する学生で、本学交換留学制度による留学をする者を対象に 15 万円を上限とした助成金が支給されます。

2 大学を通じて応募する奨学金

○独立行政法人日本学生支援機構留学生交流支援制度奨学金（協定派遣）【給付型】

制度に滋賀大学が採択された年度のみ、本学学生は応募することができます。

採択年度に交換留学生として派遣が内定した候補者の中から、学業成績、面接等によって採用者が選考されます。採用された場合は、月額で奨学金が支給されます。

○独立行政法人日本学生支援機構第二種奨学金（短期留学）【貸与型】

国内の大学等に在学しながら、海外の大学等に 3 か月以上の短期留学を希望する者を対象とする奨学金。月額 3、5、8、10、12 万円の選択制です。募集時期は、留学開始時期に合わせて 3 期あります。

* URL: http://www.jasso.go.jp/shogakukin/moshikomi/kaigai/2shu_short.html

○官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～【給付型】

2014年からスタートした新しい形の留学支援制度です。支援企業等からの寄附等の民間資金を活用して派遣留学生に奨学金を支給し、産業界を中心に社会で求められる人材や世界でまたは世界を視野に入れて活躍できる人材の育成を行うものです。留学期間中の奨学金支給だけではなく、事前・事後の研修、留学修了者のネットワークづくり等の支援を行います。

海外の大学での修学に限らない現地でのインターンシップ、ボランティア活動、フィールドワーク等の実践活動を含む留学を対象としており、申請者が立案・作成した留学計画に沿って支援が行われます。例えば、滋賀大学交換留学制度を利用して最初の半年間は海外協定校で授業を受け、後半の半年間は現地でインターンシップを行うという1年間の留学計画が支援対象となります。

在籍大学を通じて申請書類を提出します。募集は概ね年2回行われます。交換留学希望者でこの奨学金制度の利用を考えている人は、「トビタテ！留学～」の学内応募説明会に参加し、交換留学の学内選考応募、出発時期、留学期間といったスケジュールも考慮に入れて、申請を行ってください。

* URL: <http://tobitate.mext.go.jp>

3 個人で応募する奨学金

○独立行政法人日本学生支援機構『海外留学支援サイト 海外留学のための奨学金』

このサイトには、海外留学をする日本人を対象とした奨学金制度の基礎情報、給付型や貸与型の奨学金情報、応募方法等が掲載されています。数は多くはありませんが、交換留学向けの奨学金情報が分かるかもしれません。

* URL: <http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

VII 各国大使館・総領事館一覧

1 駐日各国大使館・領事館一覧

	住 所	電話番号
駐大阪・神戸アメリカ合衆国総領事館	〒530-8543 大阪府北区西天満 2 丁目 11-5	06-6315-5900
メキシコ合衆国大使館	〒100-0014 千代田区永田町 2 丁目 15-1	03-3581-1131
駐大阪大韓民国総領事館	〒542-0086 大阪府中央区西心斎橋 2 丁目 3-4	06-6213-1401
中国ビザ申請センター	〒541-0059 大阪府中央区博労町三丁目 3-7 ORE 本町南ビル 9 階	06-4300-3095t
台北駐大阪経済文化弁事処	〒550-0001 大阪府西区土佐堀 1 丁目 4-8 日栄ビル 4 階	06-6443-8484
タイ王国大阪総領事館	〒541-0056 大阪府中央区久太郎町 1 丁目 9-16 バンコック銀行ビル 4 階	06-6262-9226
在大阪モンゴル国領事館	〒541-0059 大阪府中央区博労町 3 丁目 5-1 エプソン大阪ビル 19 階	06-6241-7761
在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館	〒590-0952 大阪府堺市堺区市之町東 1 丁目 2-15	072-221-6600
駐日マレーシア大使館	〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 20-16	03-3476-3840
駐日ノルウェー王国大使館	〒106-0047 東京都港区南麻布 5-12-2	03-6408-8100
在神戸ノルウェー王国名誉総領事館	〒651-0087 神戸府中央区御幸通 4-2-20 三宮中央ビル 9F DNV GL 気付	078-291-1317
在大阪・神戸オランダ総領事館	〒540-6133 大阪府中央区城見 2 丁目 2-1-61 ツイン 21 MID タワー 33 階	06-6944-7272
在日フランス大使館	〒106-8514 東京都港区南麻布 4-11-44	03-5798-6000
在大阪オーストラリア総領事館	〒540-6133 大阪府中央区城見 2 丁目 2-1-61 ツイン 21 MID タワー 16 階	06-6941-9271

2 在外日本大使館・総領事館一覧

	住 所	電話番号
在デトロイト日本国総領事館	400 Renaissance Center, Suite 1600, Detroit, Michigan 48243 U.S.A.	313-567-0120
在メキシコ日本国大使館	Paseo de la Reforma No. 395, Col. Cuahutémoc, Delegación Cuauhtémoc C.P. 06500 México, D.F.	055-5211-0028
在釜山日本国総領事館	釜山広域市東区古館路 18	051-465-5101 ~ 6
在中国日本国大使館	北京市朝陽区亮馬橋東街 1 号 100600	010-8531-9800
在瀋陽日本国総領事館 大連領事事務所	大連市西崗区中山路 147 号 森茂大廈 3F	0411-8370-4077
公益財団法人交流協会 台北事務所	10547 台北市慶城街 28 號 通泰商業大樓	02-2713-8000
公益財団法人交流協会 高雄事務所	高雄市苓雅区和平一路 87 號 9F, 10F 南和和 平大樓	07-771-4008
在タイ日本国大使館	177 Witthayu Road, Lumpini, Pathum Wan, Bangkok 10330, Thailand	02-207-8500 02-696-3000
在チェンマイ日本国総領事館	Airport Business Park 90 Mahidol Rd., T Haiya, A. Mung, Chiangmai, 50110 Thailand	053-203367
在モンゴル日本国大使館	Elchingiin gudamj 10, Ulaanbaatar 14210 (Central P.O.Box 1011), Mongolia	011-320-777
在ベトナム日本国大使館	27 Lieu Giai Street, Ba Dinh District, Hanoi, Viet Nam	04-3846-3000
在マレーシア日本国大使館	11, Persiaran Stonor, Off Jalan Tun Razak, 50450 Kuala Lumpur, Malaysia	03-2177-2600
在ノルウェー日本国大使館	Haakon VII's Gate 9, 0244 Oslo, Norway	022-01-2900
在オランダ日本国大使館	Tobias Asserlaan 2, 2517 KC Den Haag, The Netherlands	03-9679-4510
在フランス日本国大使館	7 Avenue Hoche 75008 Paris, France	01-4888-6200
在シドニー日本国総領事館	Level 12 1 O'Connell Street, Sydney NSW 2000, Australia	02-9250-1000
在メルボルン日本国総領事館	Level 25, 570 Bourke Street Melbourne VIC 3000, Australia	03-9679-4510

滋賀大学 交換留学の手引き 2019年度版

2019年4月発行

国立大学法人滋賀大学国際交流機構

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号

TEL 0749-27-1172

URL <http://sui.shiga-u.ac.jp/>

E-mail kokusai@biwako.shiga-u.ac.jp